

第2部

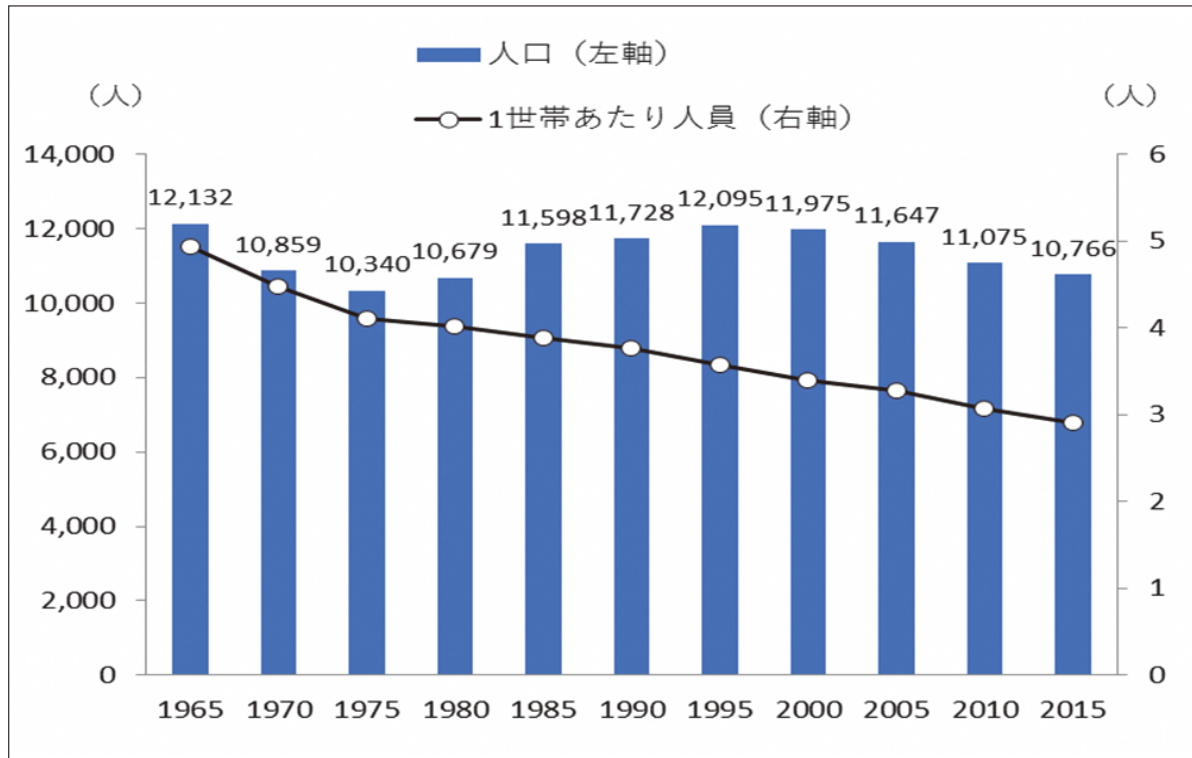
人口ビジョン

第1章 人口の現状分析

1 錦町人口の長期推移

錦町の人口は昭和55年から平成7年まで増加し、その後は緩やかな減少傾向にある。

図表 錦町の人口の推移



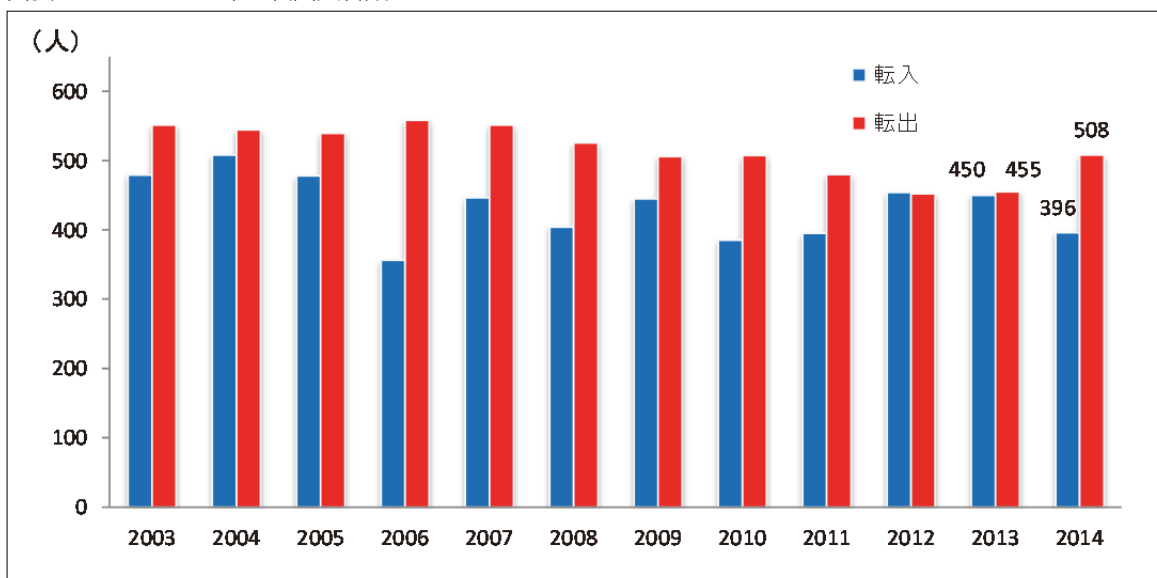
(資料)総務省「国勢調査」

2 転入・転出の動向

転入・転出者の推移

- 転入者は毎年400人前後、転出者は500人前後で推移している。
- 2012、13年は転入者数と転出者数がともに450人前後で拮抗していたが、2014年は再び100人超(112人)の転出超過となっている。

図表 2003～14年の転出入者数

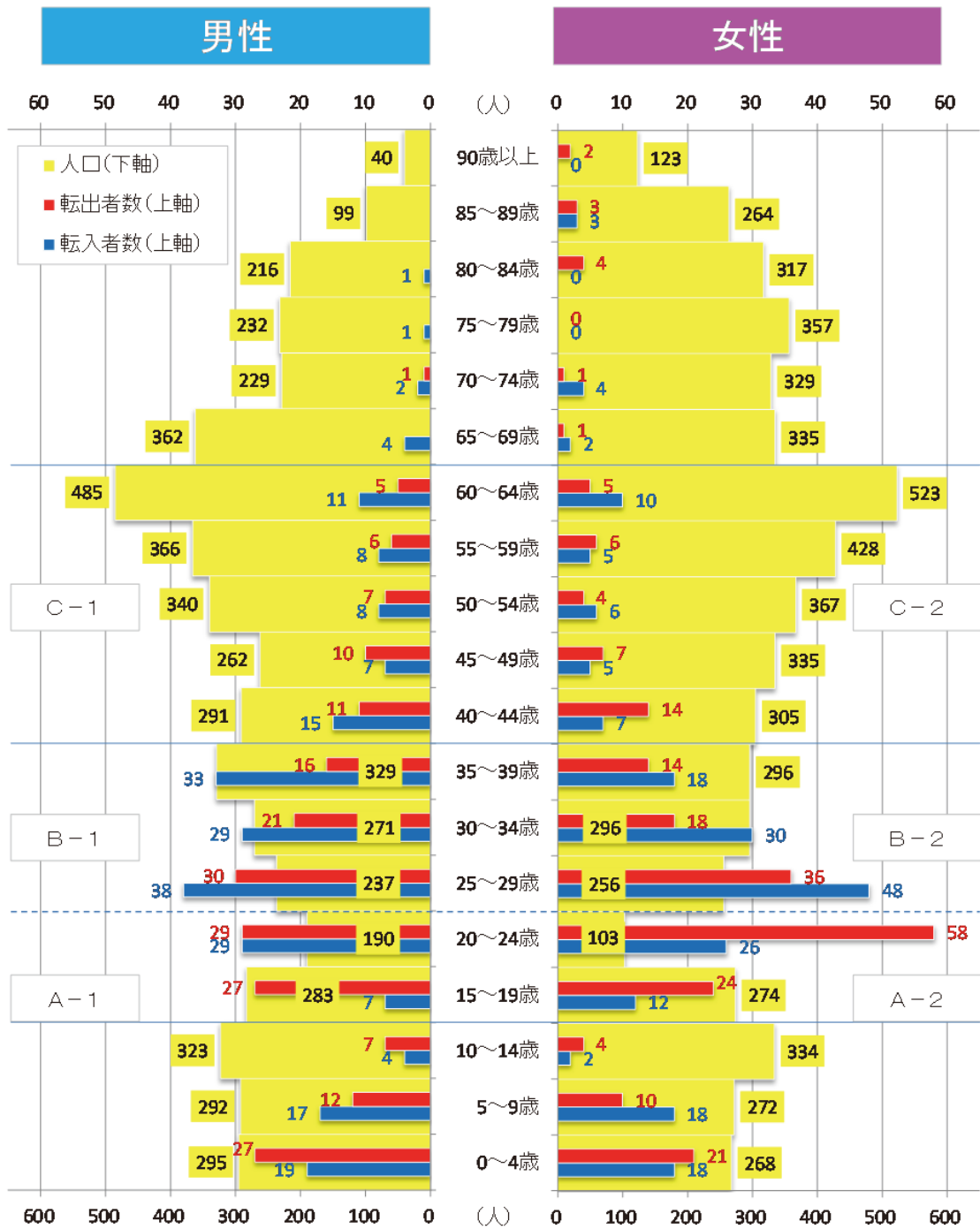


(資料)錦町人口(月次、転出入)(錦町データ)

性別、5歳階級別転入・転出者数

- 2013年は全年代合計で6人の転入超過であったが、内訳では、男性が24人の転入超過、女性が18人の転出超過であった。5歳階級別に転入超過状況を見ると、生産年齢人口(15～64歳)で特徴的な状況が見られた。
- 転出超過が顕著なのは、男女とも就職、大学進学時期である15～24歳である。特に女性では、転出者が82人にもものぼり、44人の転出超過となっている。なお、20～24歳の転出入者には、15～19歳時点で移動していた人で住民票を移していなかった人が、就職を期に住民票を移した数も含まれると推測される。
- 転入超過が顕著なのは、男女とも25～39歳。男性33人、女性28人とともに大きく転入超過している。
- 40～64歳を5歳階級別に見ると、全ての階級、性別で5～15人の転出入があるが、トータルでは若干(7人)の転入超過で落ち着いている。
- 65歳以上ではほとんど転出入が発生しておらず、こちらも若干(5人)の転入超過であった。

図表 2013年、性別、5歳年齢別の人口と転出入者数



	全体	年少人口	生産年齢人口				老齢人口
		0~14歳	15~24歳	25~39歳	40~64歳	計	65歳以上
男	24	-6	-20	33	10	23	7
女	-18	3	-44	28	-3	-19	-2
計	6	-3	-64	61	7	4	5

(資料) H25年人口動態調査報告(熊本県、人口は2013年10月1日現在)住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表(錦町データ)

転入元、転出先の状況

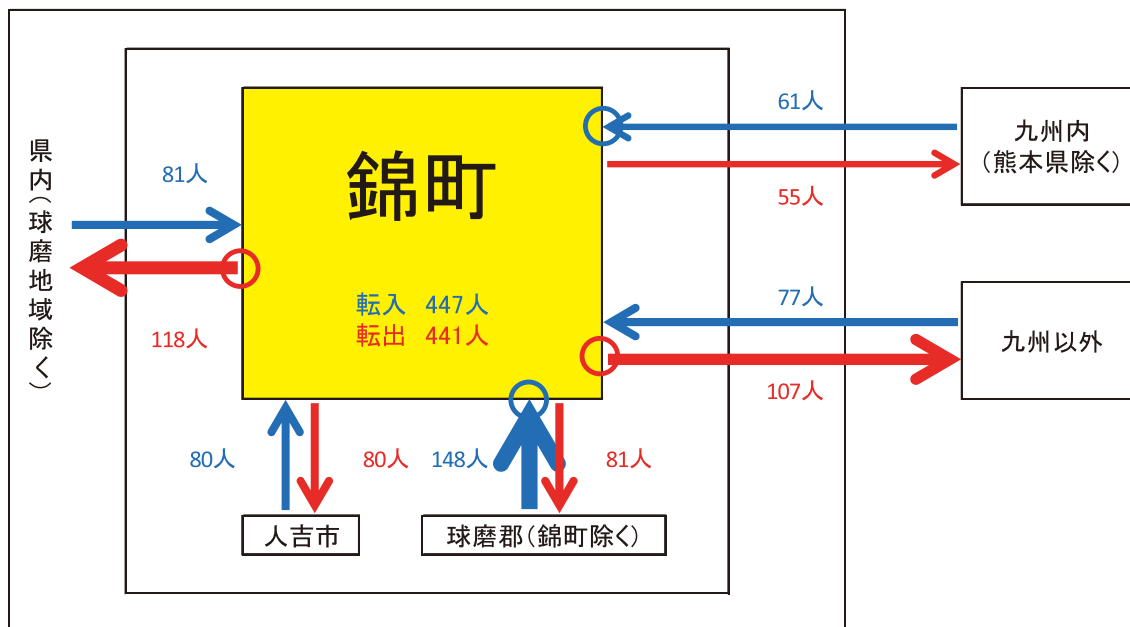
○2013年の転出入について、全年齢ならびに転出入の多い生産年齢人口について、その転入元、転出先をみてる。なお、転出入先は①球磨郡内(錦町除く)、②人吉市、③県内(球磨地域を除く)、④九州内(熊本県内を除く)、⑤九州以外の5つのエリアとする。

○全年齢で見ると、転入については、転入者447人のうち約半数(228人)が球磨地域(球磨郡内ならびに人吉市)からであった。特に、球磨郡内との間では67人と大きく転入超過となっている。

○転出については、県内に118人転出(37人転出超過)、次いで九州外に107人転出(30人転出超過)であり、九州内への転出は55人(6人転入超過)と少ない。

図表 2013年、転入元、転出先別の転出入者数

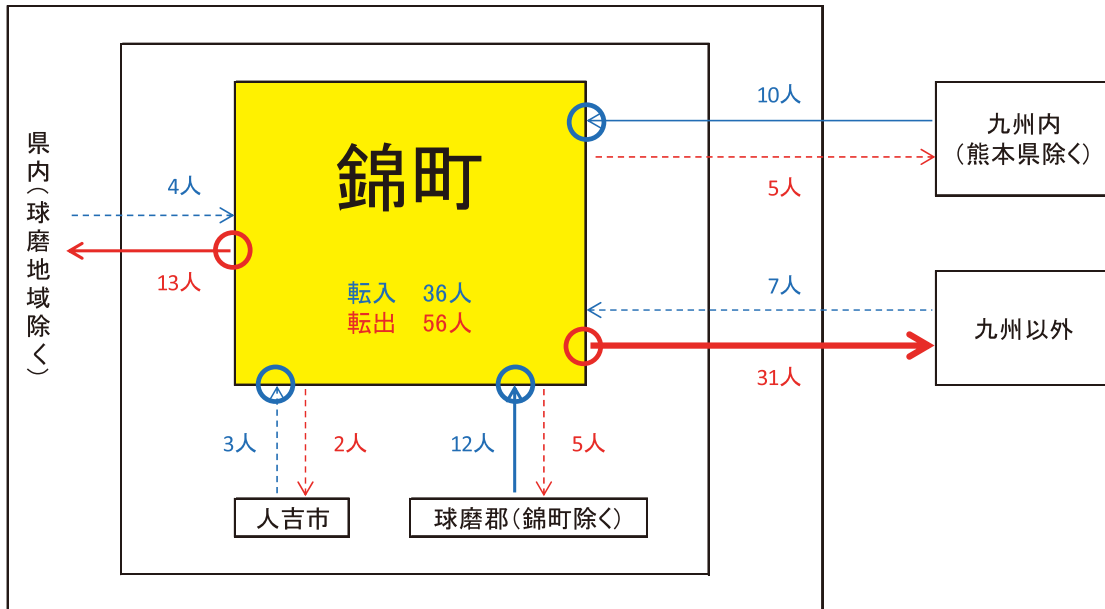
■総数■



(資料)住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表(錦町データ)

○15～24歳の男性では20人の転出超過になっている。その中でも、九州以外への転出者が31人となり、転出者の6割近くを占め非常に多く、次いで県内13人となっている。九州内への転出は少なく5人(5人の転入超過)に留まっている。

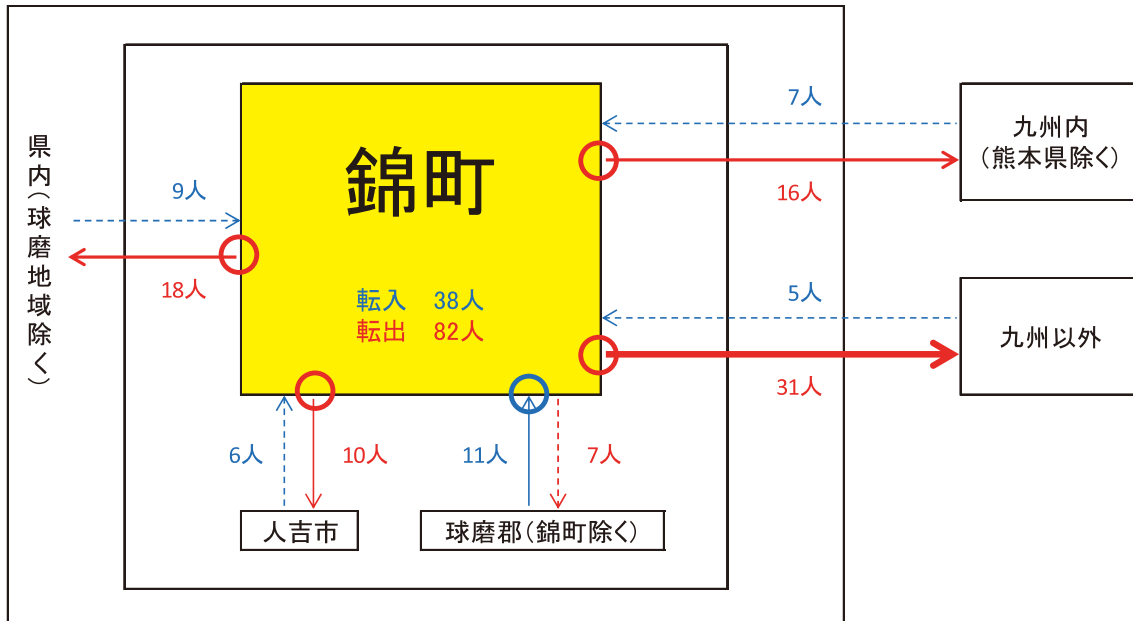
■A-1 ■ 15～24歳、男性



(資料)住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表(錦町データ)

○15～24歳の女性では44人の転出超過になっている。男性同様、九州外への転出者が31人と多く、次いで県内18人。男性と異なり、九州内(転出16人、9人の転出超過)や人吉市(転出10人、4人の転出超過)へも転出している。

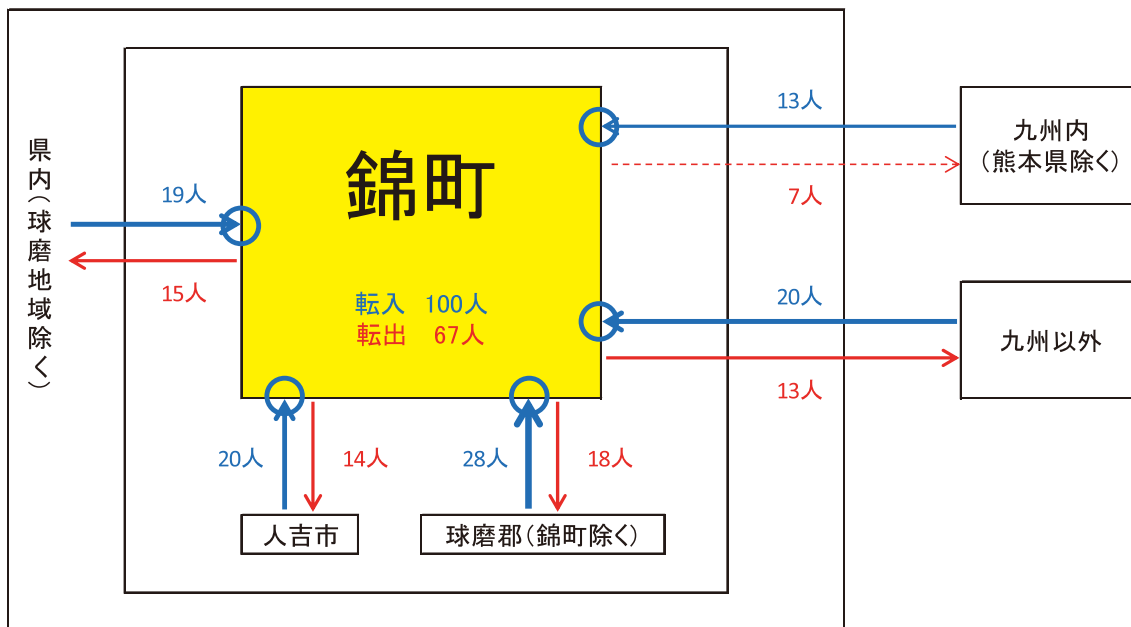
■A-2 ■ 15～24歳、女性



(資料)住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表(錦町データ)

○25～39歳の男性は、33人の転入超過である。球磨郡内からの転入28人（10人の転入超過）だけでなく、全てのエリアから万遍なく転入している様子が伺える。

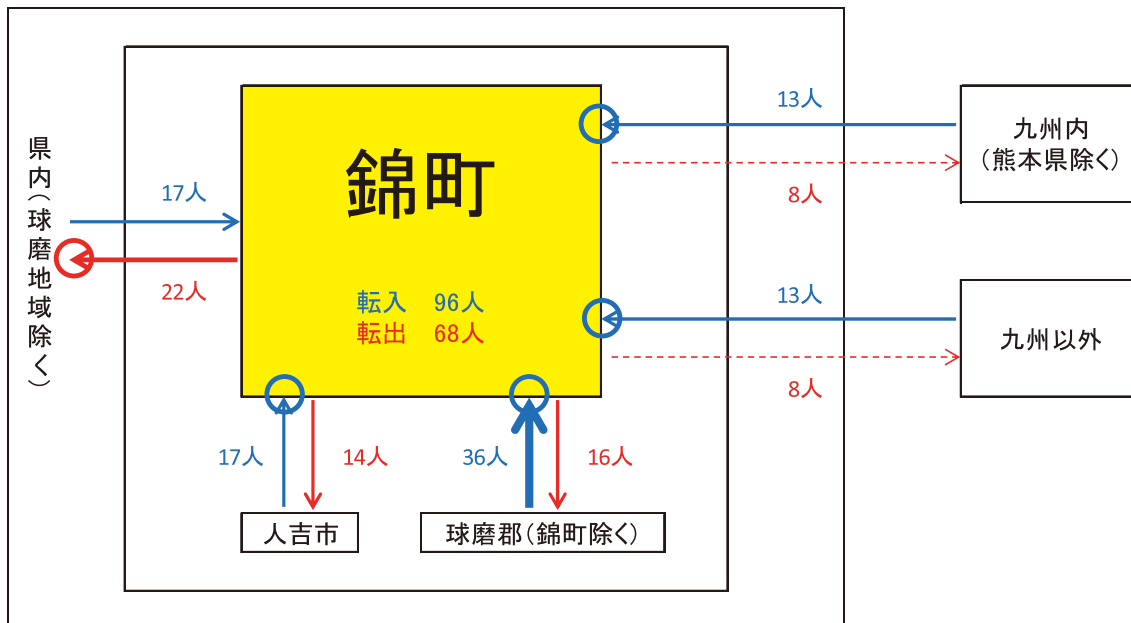
■B-1 ■25～39歳、男性



（資料）住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表（錦町データ）

○25～39歳の女性は、28人の転入超過である。男性同様に球磨郡内からの転入36人（20人の転入超過）が目立つが、他のエリアからの転入も多い。なお、県内に対しては5人の転出超過であった。

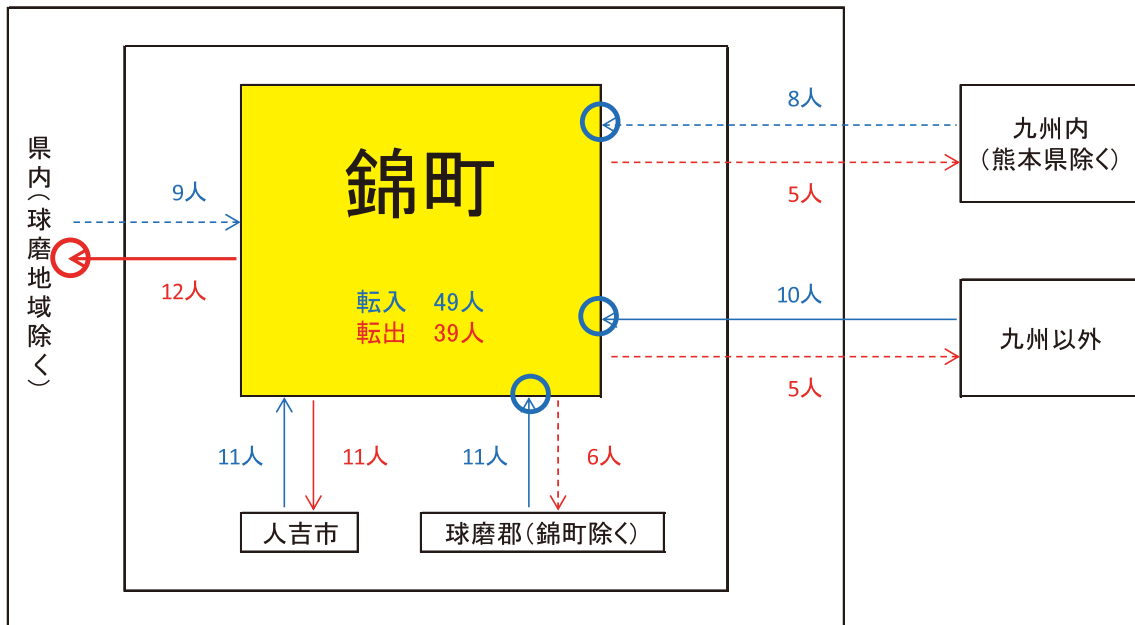
■B-2 ■25～39歳、女性



（資料）住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表（錦町データ）

○40～64歳の男性は、10人の転入超過である。全エリアから8～11人の転入がある反面、県内(12人、3人の転出超過)、人吉市(11人)への転出が比較的多い。

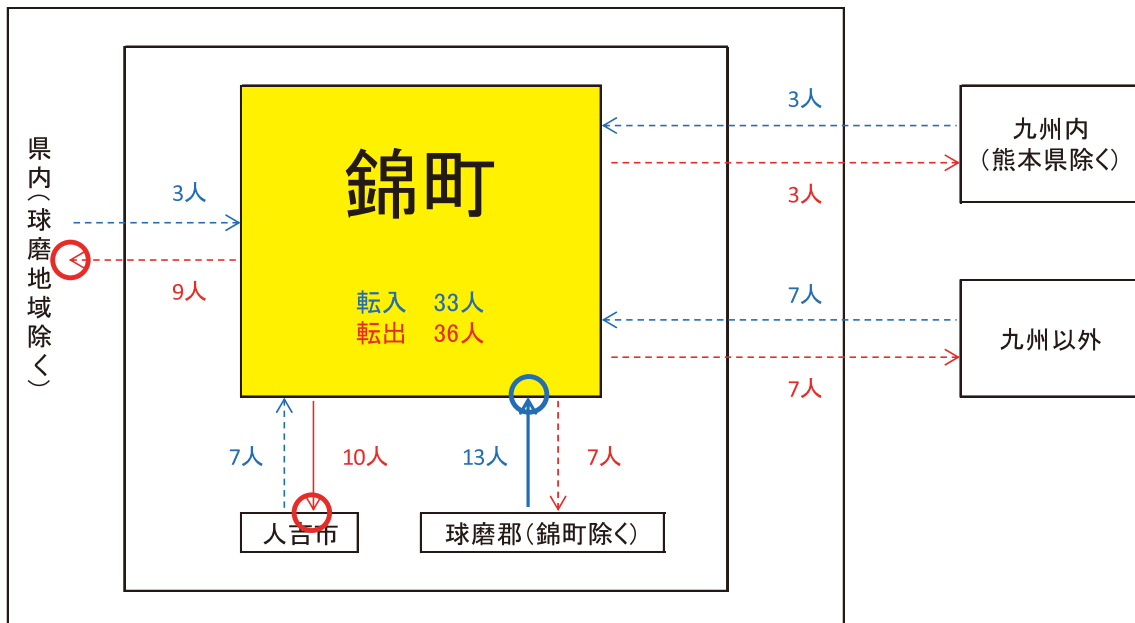
■C-1 ■40～64歳、男性



(資料)住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表(錦町データ)

○40～64歳の女性は3人の転出超過。転入では球磨郡内からの13人、転出では人吉市への10人が目立つ。

■C-2 ■40～64歳、女性



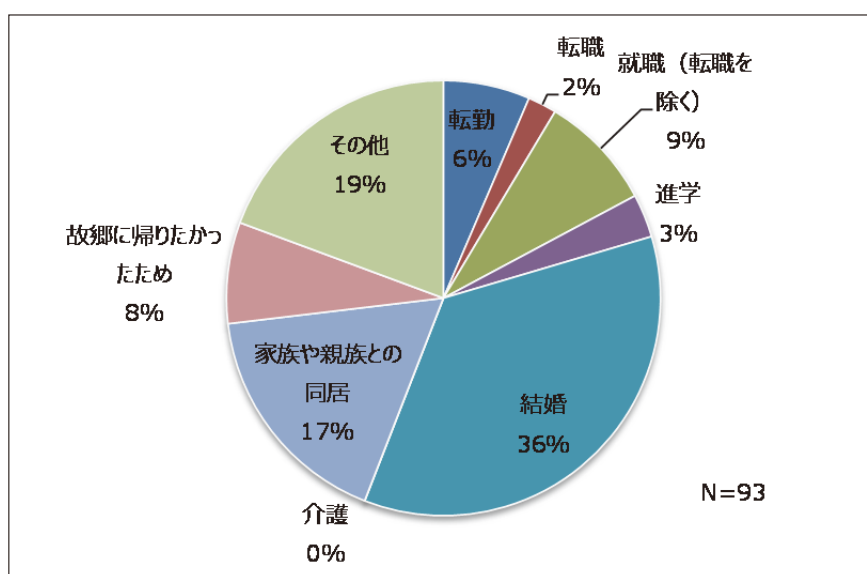
(資料)住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表(錦町データ)

錦町への転入理由

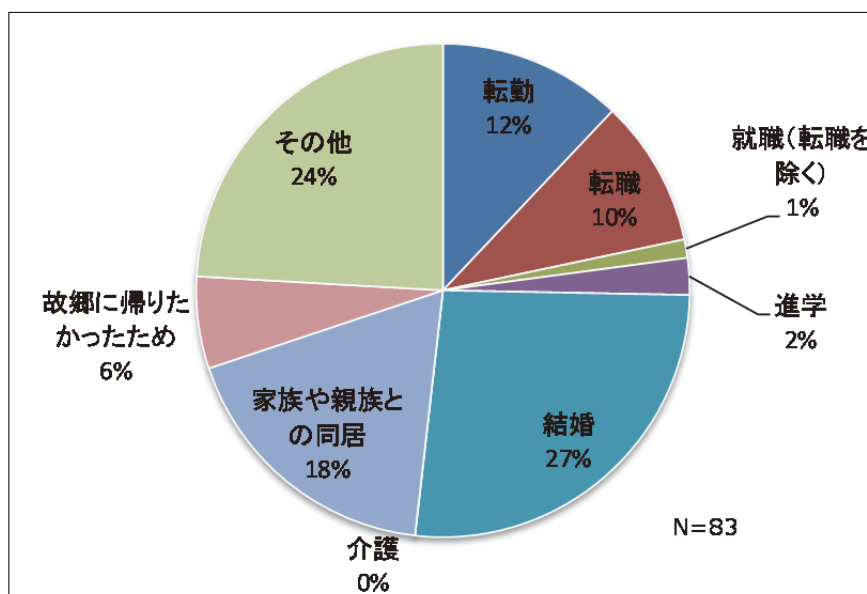
○錦町に住む子育て世代（18～49歳）、過去5年に錦町に転入した方へのアンケート調査によると、錦町への転入理由は「結婚」「家族や親族との同居」が高い。「その他」は、住宅取得や、勤務先の変更を伴わない引越（住み替え）によるものと考えられる。一方、「転勤」「転職」「就職」など、仕事を理由とする割合が少ない傾向がある。

○錦町への転入者は、錦町で職を得て転入するケースより、錦町外で働きつつ、居住場所として錦町を選ぶケースが多いとみられる。

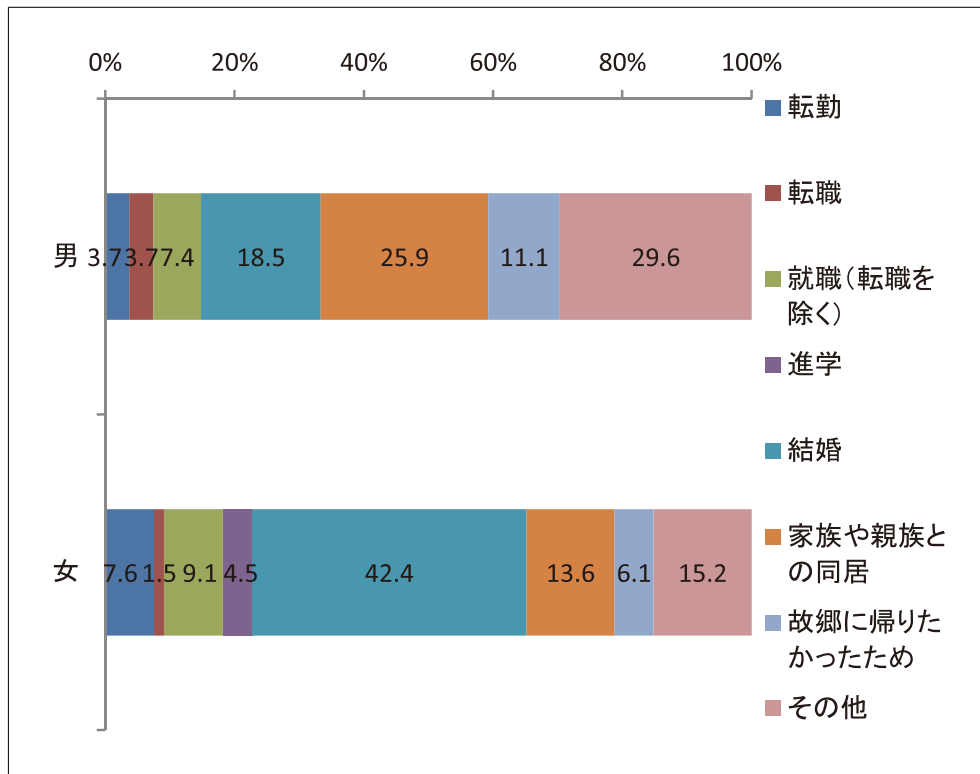
図表 錦町への転入理由(子育て世代)



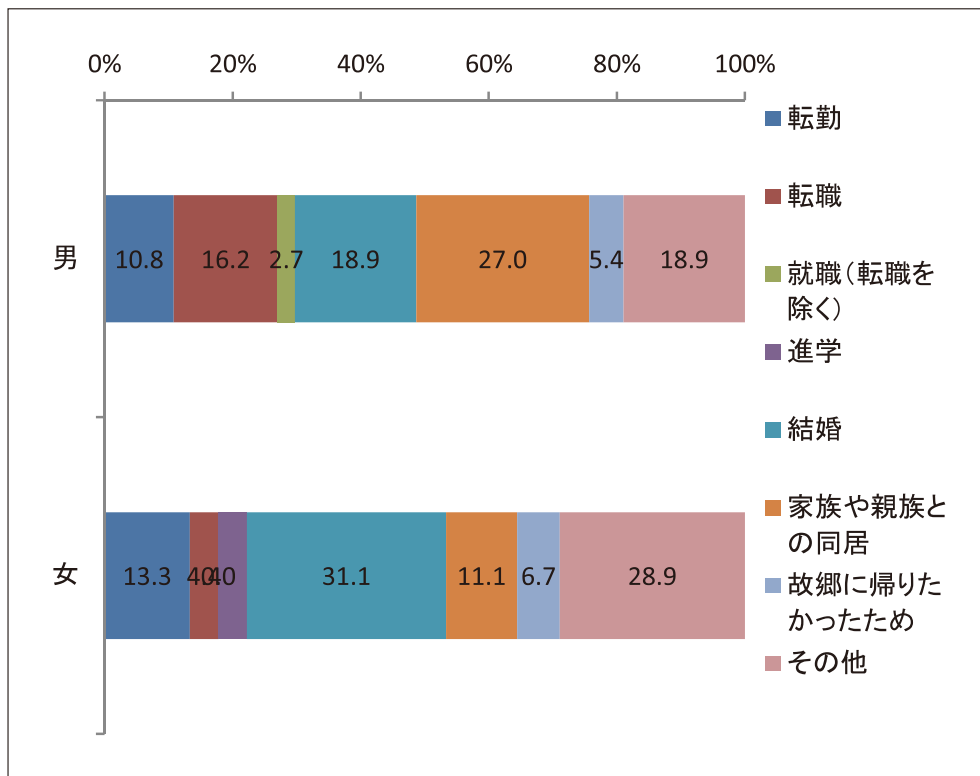
図表 錦町への転入理由(転入者)



図表 錦町への転入理由(子育て世代・男女別)



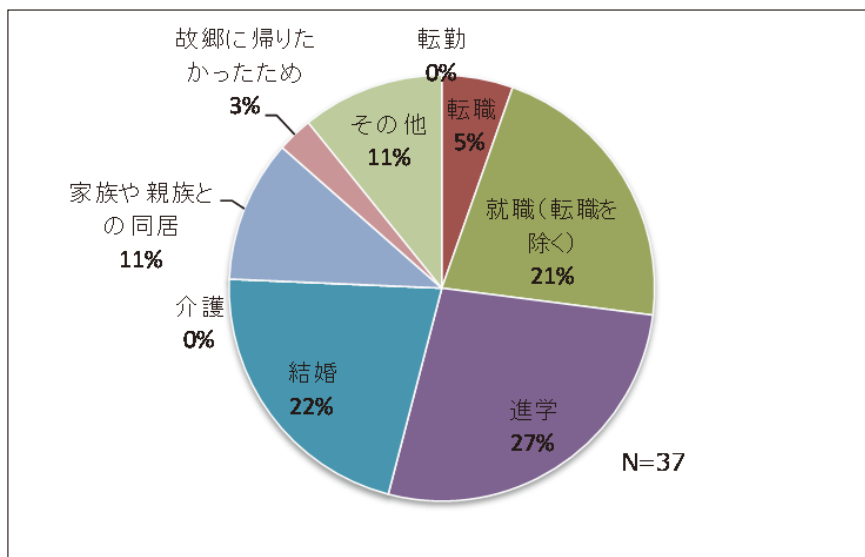
図表 錦町への転入理由(転入者・男女別)



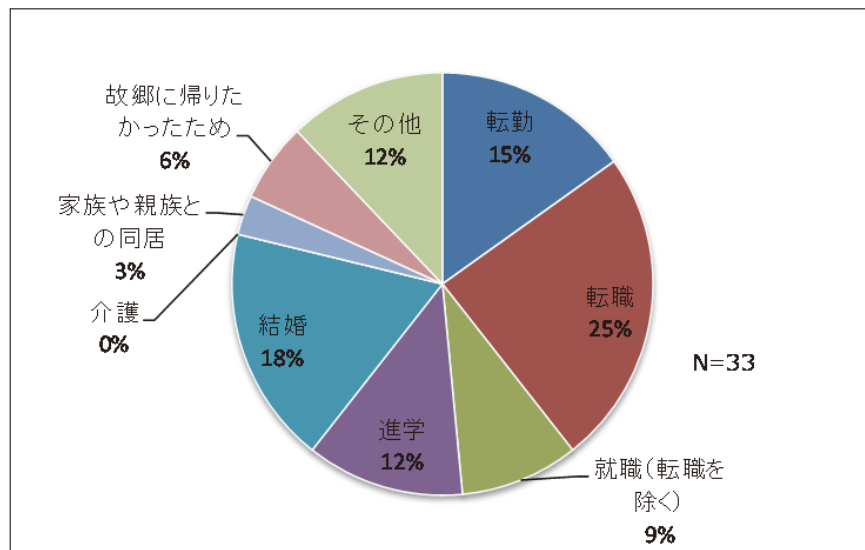
錦町からの転出理由

- アンケート調査より錦町からの転出理由をみると、「転勤」「転職」を理由とするもの、「就職」「進学」を理由とするもの、「結婚」「家族や親族との同居」を理由とするものに分かれる。
- 錦町からの転出者について、錦町での居住年数をみると、概ね「1～3年で転出するグループ」、「18年(歳)で転出するグループ」、「20～29年(歳)で転出するグループ」の3つに分類される。それぞれの転出理由をみると、1～3年のグループは転勤・転職によるもの、18年(歳)のグループは就職・進学によるもの、20～29年(歳)は結婚によるものが多い。
- また、高校生を対象に実施したアンケート調査によると、就職(希望)先のうち、町内での就職を希望する割合は2%とごく少数にとどまっている。高校生の希望就職先の選択理由としては、「自分の得意分野を活かせる」「収入が十分に得られる」が多数となっている。「企業の知名度」や「都会で生活したい」といった、いわゆる“都会志向”による就職先選択者は少ない。

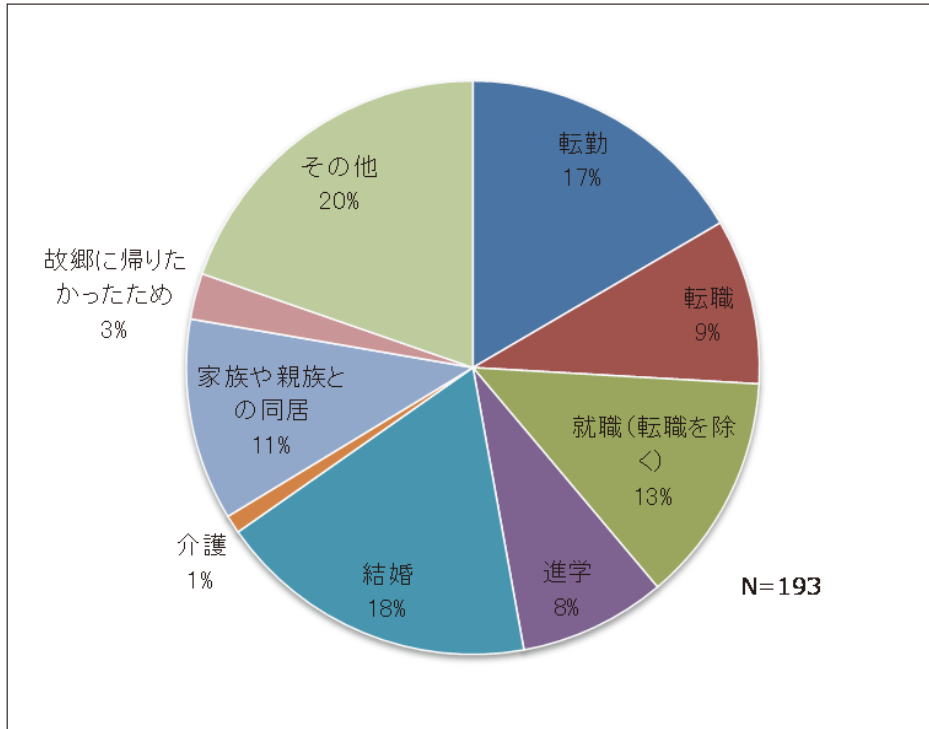
図表 錦町からの転出理由(子育て世代)



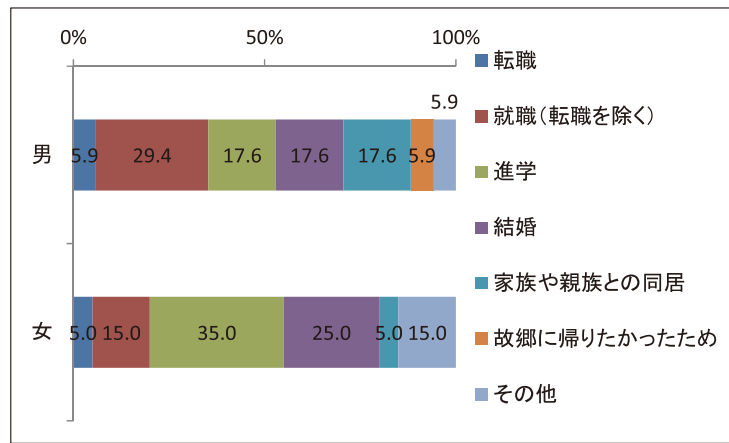
図表 錦町からの転出理由(転入者)



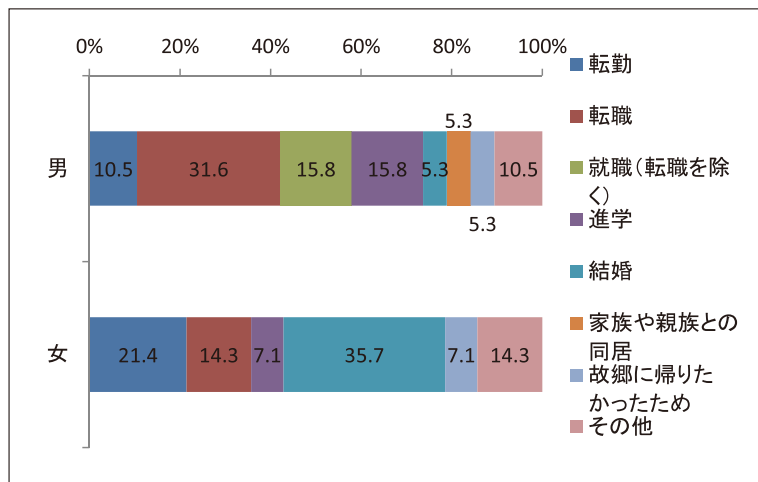
図表 錦町からの転出理由(転出者)



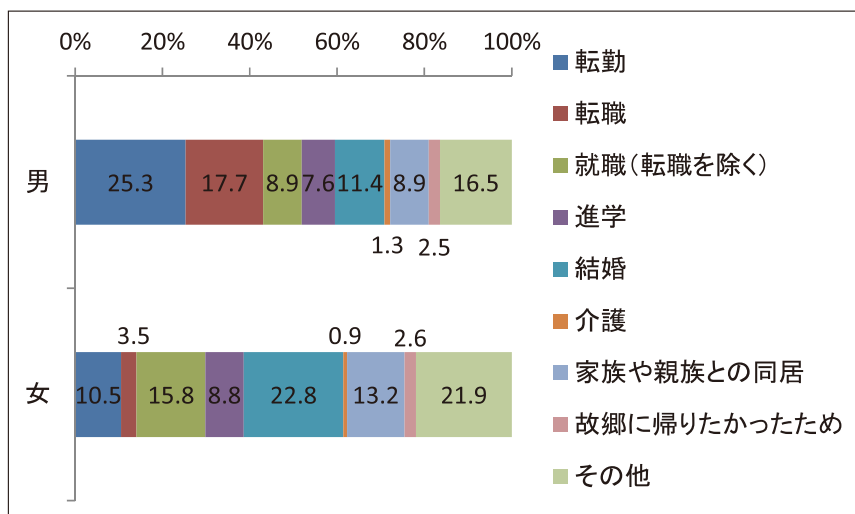
図表 錦町からの転出理由(子育て世代・男女別)



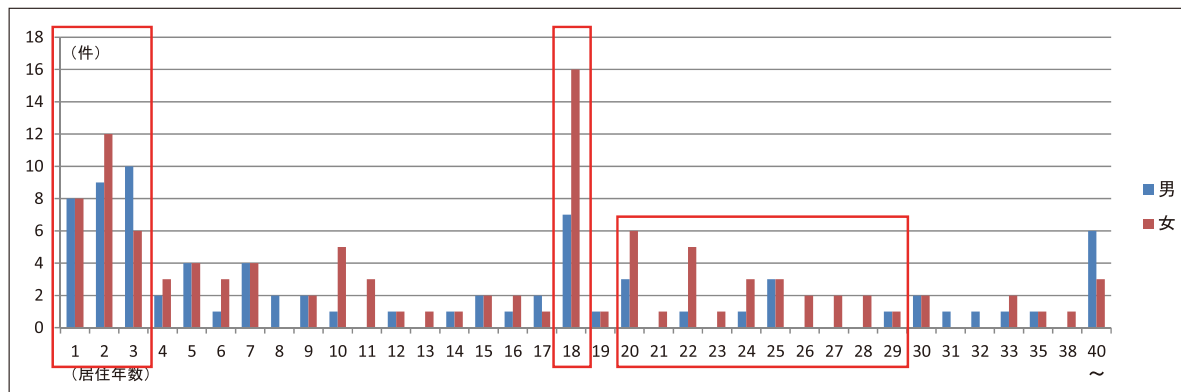
図表 錦町からの転出理由(転入者・男女別)



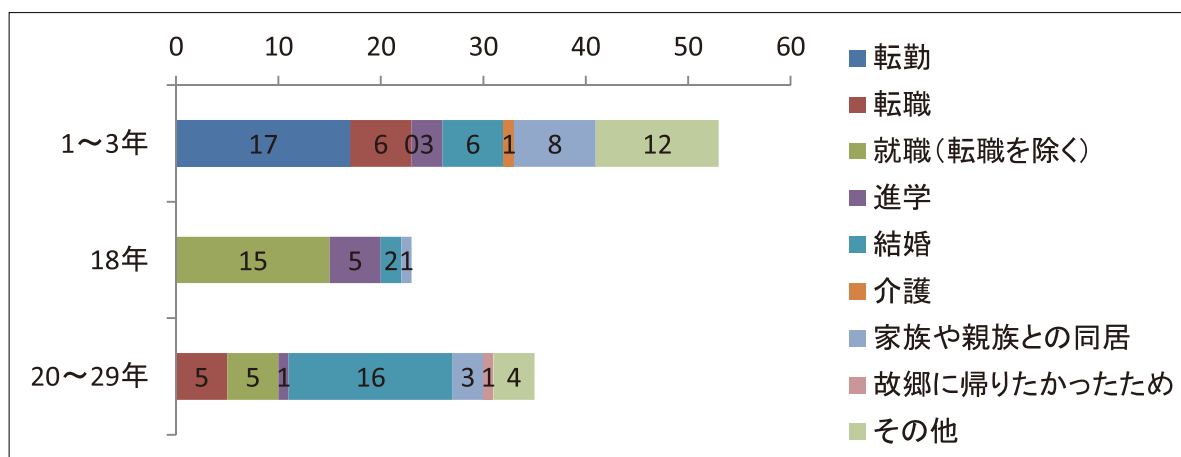
図表 錦町からの転出理由(転出者・男女別)



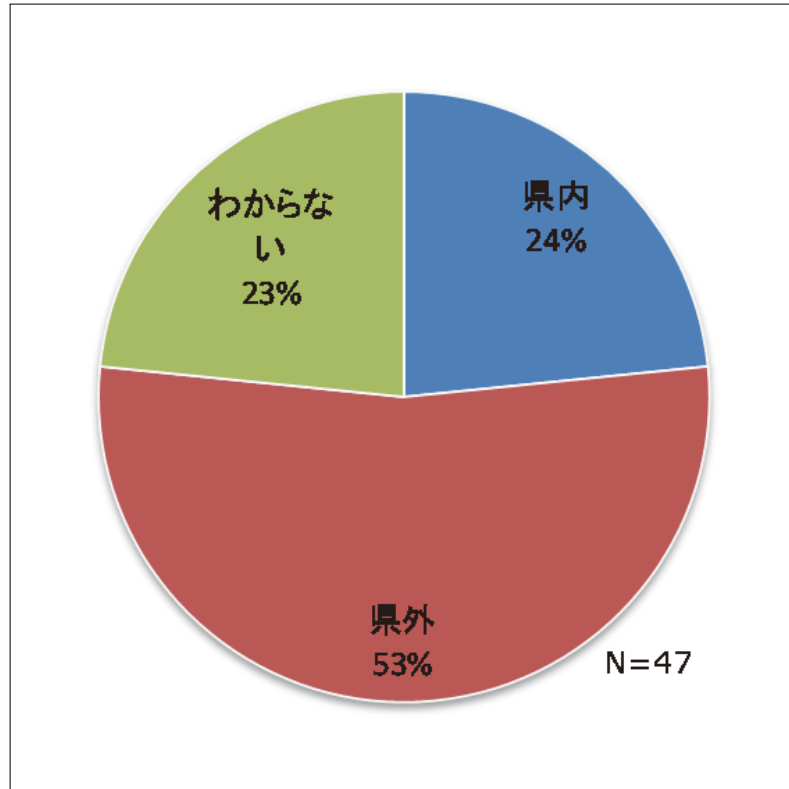
図表 転出者の錦町居住年数



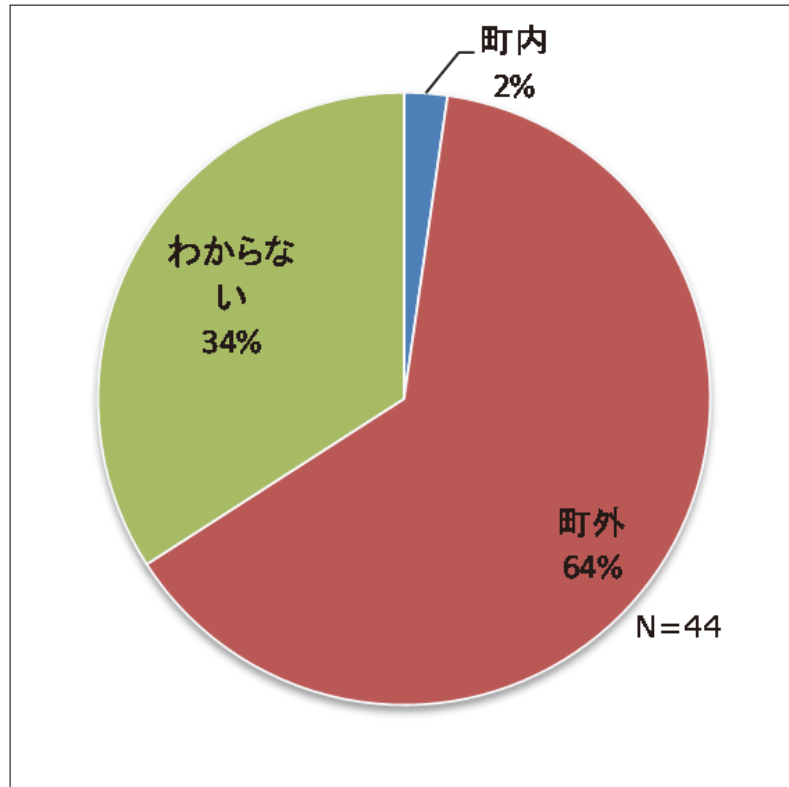
図表 転出者の転出理由(錦町居住年数別)



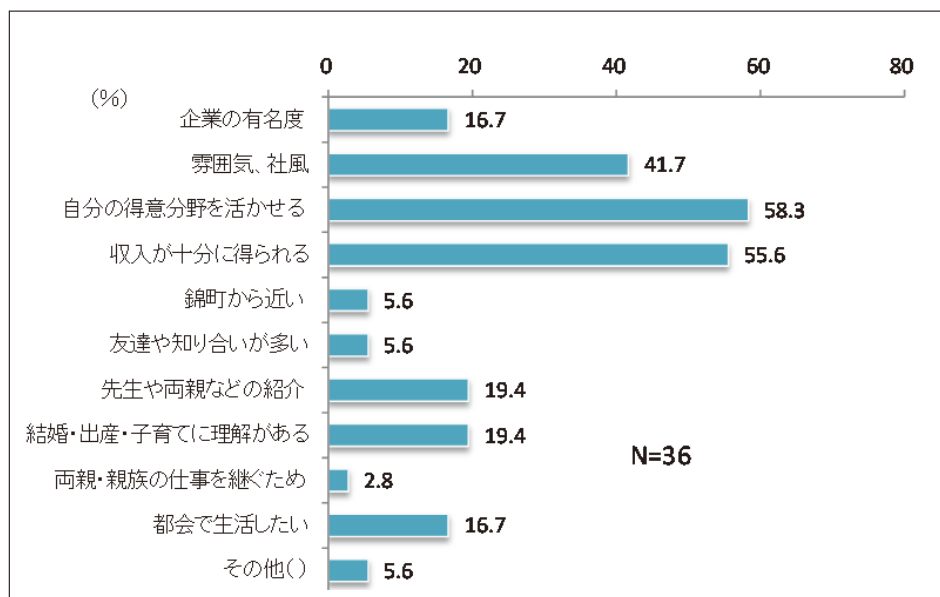
図表 高校生の進学(進学希望)先



図表 高校生の就職(就職希望)先



図表 高校生の就職先選択理由

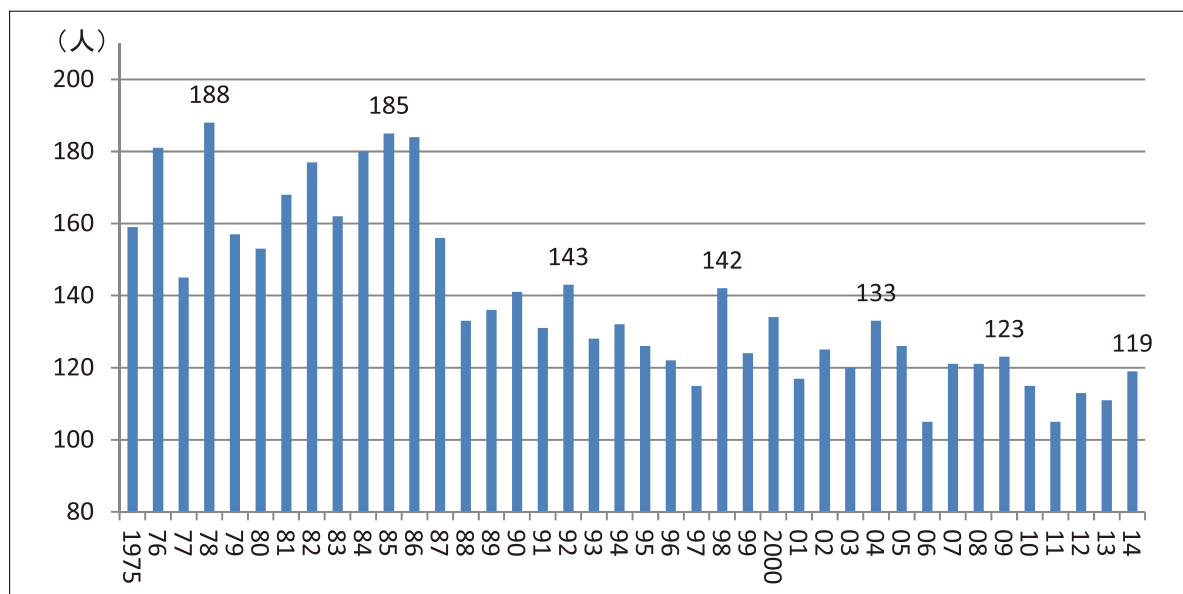


3 出生の状況

錦町ならびに近隣(球磨地域)の合計特殊出生率の推移

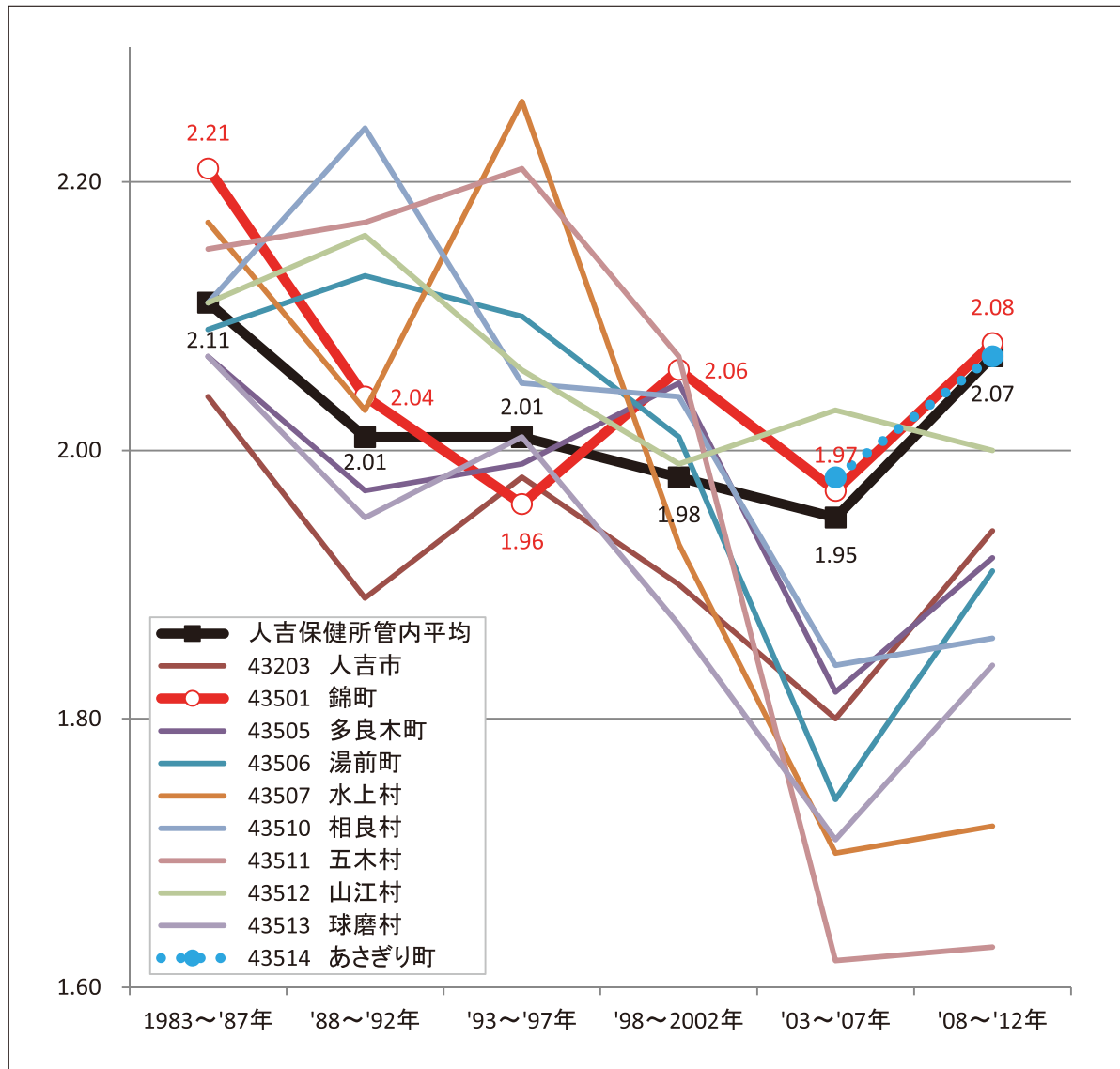
- 出生数は、30年ほど前は160～180人で推移していたが、1980年代後半から140人を割り込むようになり、2001年以降は100～120人で推移している(2014年は119人)。
- 球磨地域を管内とする人吉保健所管内平均の合計特殊出生率は2.00前後と高い値で推移している。直近の2008～12年期も2.07と高い。錦町はその中でもトップクラスの値で推移しており、2008～12年期も2.08と人吉保健所管内で一番高い値となっている。

図表 出生数の推移(1975～2014年)



(資料)熊本県「市区町村別人口動態推移」

図表 人吉保健所管内各市町村の合計特殊出生率の推移



(注)旧1町4村(免田町、上村、岡原村、須恵村、深田村)の個別表記をしていないが、1983~2002年の人吉保健所管内平均には旧1町4村の値も含む。

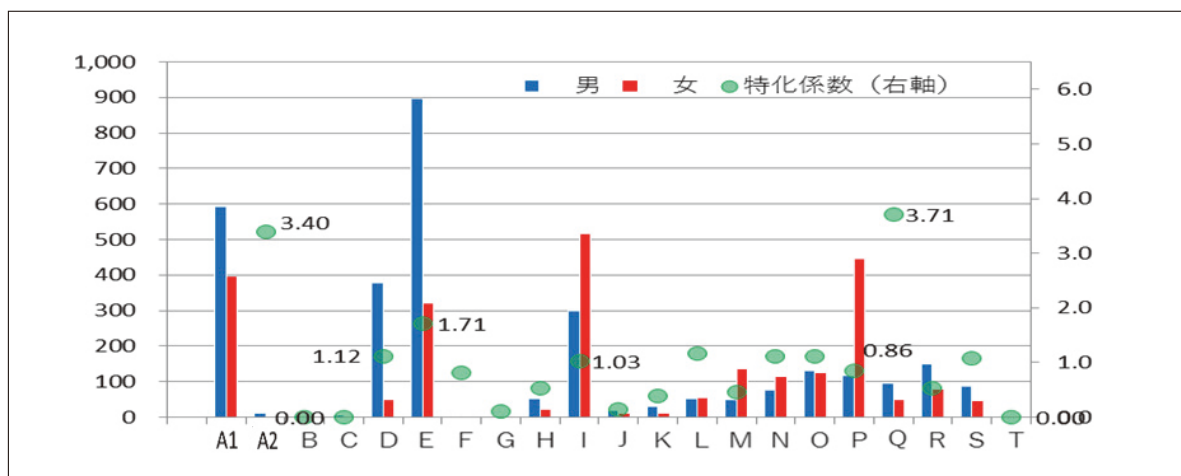
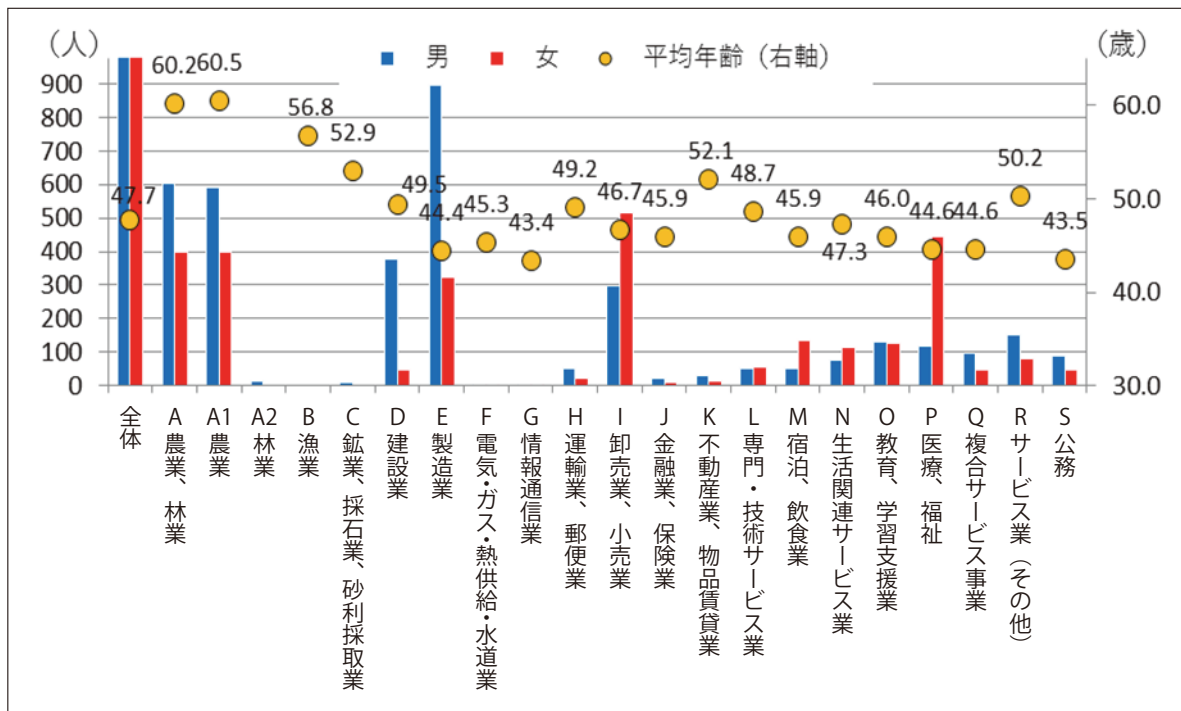
(資料)厚生労働省「人口動態統計保健所・市区町村別統計」

4 雇用・就労の状況

産業別人口(15歳以上就業者)、平均年齢、産業別修正特化係数*1

- 錦町常住者は「農業」「建設業」「製造業」「卸売業、小売業」「医療、福祉」への就業が多い。
 - 「農業」のほとんどは町内常住者であるが、高齢化(60.2歳)が目立つ。
 - 「製造業」では町外から通勤してくる方、「医療、福祉」は町外に通勤する方が多い。
 - 修正特化係数は、「鉱業、採石業」「複合サービス事業」「農業」「林業」「製造業」の順に高い。
- なお、「複合サービス事業」には農協など協同組合も含まれる。

図表 2015年、錦町常住者(従業地を問わず)の産業別人口と平均年齢(上表)
2015年、錦町従業者(常住地を問わず)の産業別人口と修正特化係数(下表)



(資料)総務省「国勢調査(2015年)」

* 1 全国の就業者比率との比較、全国レベルでの自足率で補正され、係数値が1.00を超える部門は地域にとって純移出がプラスの稼ぐ産業と言える。

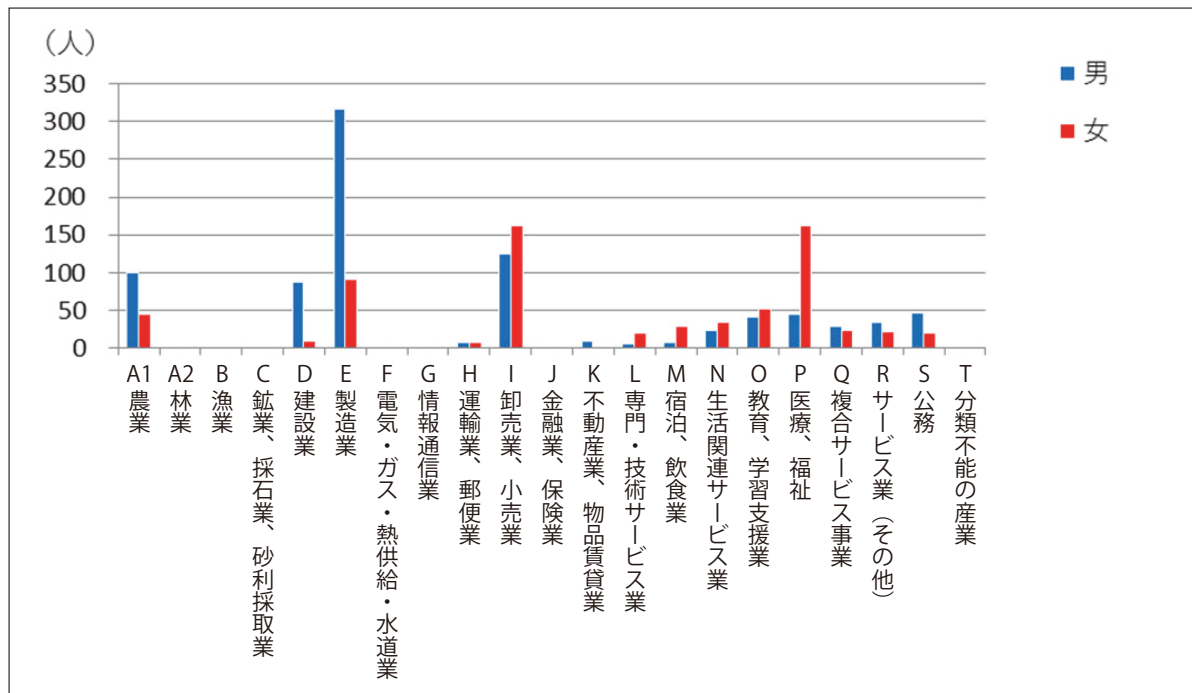
錦町常住者の産業別人口(性別、年齢階層別)

○2015年における錦町常住者の産業別人口を、性別、ならびに生産年齢人口の前半(15～39歳)と後半(40～64歳)、高齢人口(65歳以上)に分けた年齢階層別にみている。

○生産年齢人口の前半(15～39歳)の就業者数は1,571人と全就業者の28.9%である。男性は「製造業」「卸売業・小売業」「建設業」に多く就業し、女性は「医療・福祉」「卸売業・小売業」「製造業」に多い。

図表 年代別の産業別人口(2015年)

■ 15～39歳

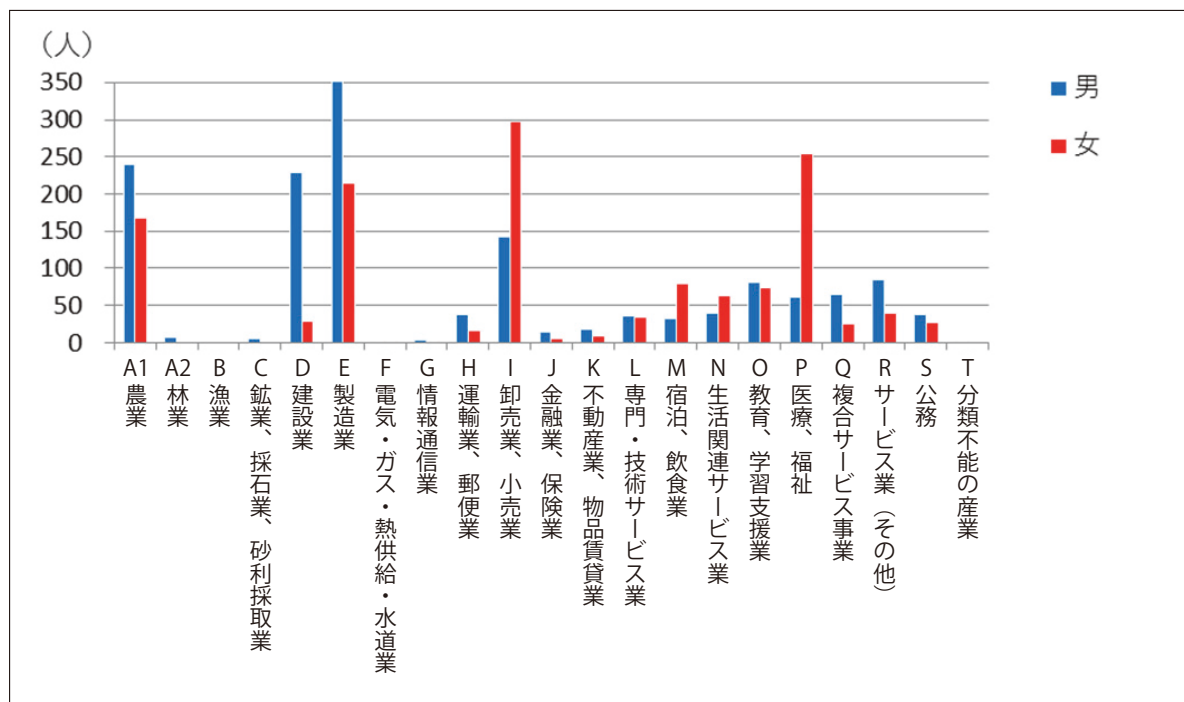


	農業	建設業	製造業	卸売業 小売業	宿泊業 飲食サー ビス業	医療 福祉	その他	計
男	102人 1.9%	88人 1.6%	317人 5.8%	125人 2.3%	8人 0.1%	45人 0.8%	205人 3.8%	890人 16.4%
女	45人 0.8%	10人 0.2%	91人 1.7%	162人 3.0%	28人 0.5%	162人 3.0%	183人 3.4%	681人 12.5%
計	147人 2.7%	98人 1.8%	408人 7.5%	287人 5.3%	36人 0.7%	207人 3.8%	388人 7.1%	1,571人 28.9%

(資料)総務省「国勢調査(2015年)」

○生産年齢人口の後半(40～64歳)の就業者数は3,021人と3つのカテゴリーでは一番多く、全就業者の過半数(55.6%)を占める。男女とも、前半(15～39歳)と就業傾向は似ているが、「農業」への就業者の多さが目立つ。

■40～64歳

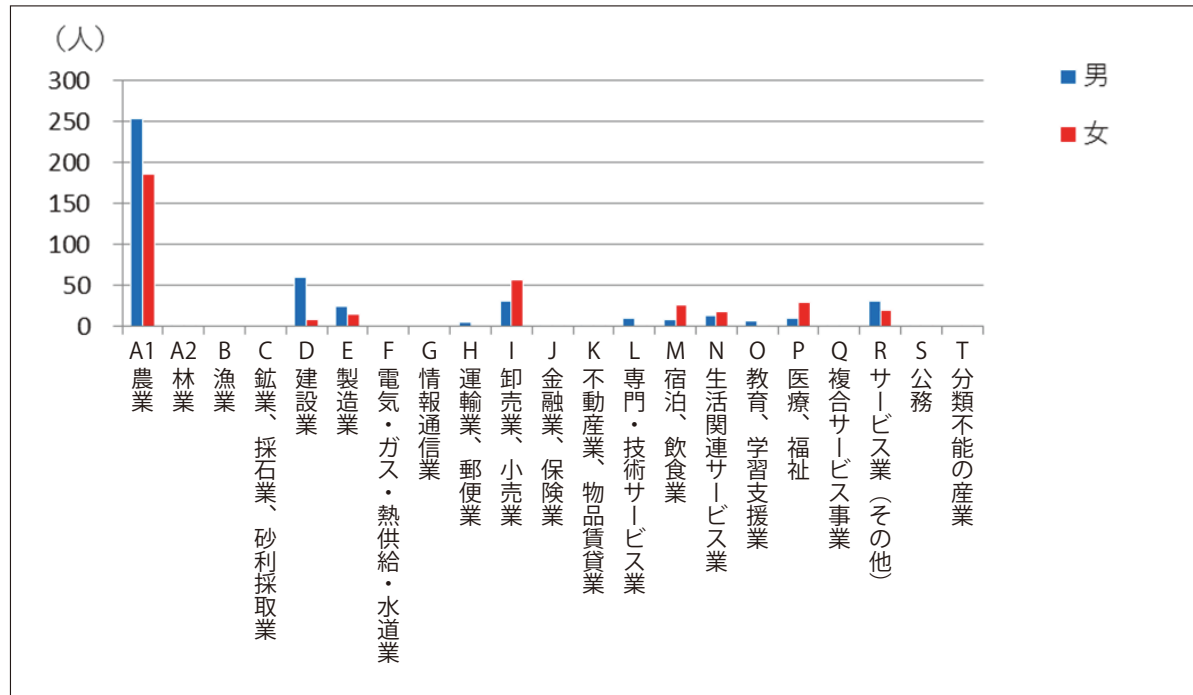


	農業	建設業	製造業	卸売業 小売業	宿泊業 飲食サービス業	医療 福祉	その他	計
男	246人 4.5%	228人 4.2%	555人 10.2%	142人 2.6%	33人 0.6%	61人 1.1%	422人 7.8%	1,687人 31.0%
女	167人 3.1%	29人 0.5%	215人 4.0%	297人 5.5%	80人 1.5%	254人 4.7%	292人 5.4%	1,334人 24.5%
計	413人 7.6%	257人 4.7%	770人 14.2%	439人 8.1%	113人 2.1%	315人 5.8%	714人 13.1%	3,021人 55.6%

(資料)総務省「国勢調査(2015年)」

○高齢人口(65歳以上)での就業者数は842人で全就業者の15.5%である。「農業」に444人就業しており、「農業」全就業者1,004人の44.2%を占める。

■ 65歳以上



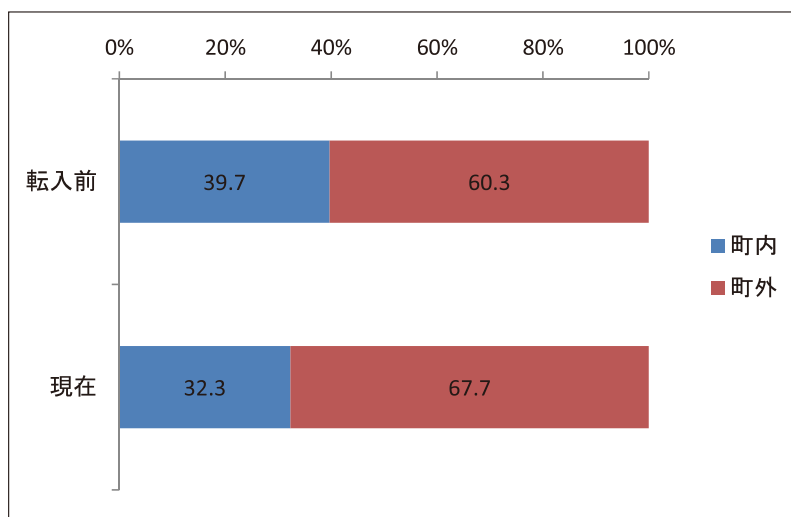
	農業	建設業	製造業	卸売業 小売業	宿泊業 飲食サー ビス業	医療 福祉	その他	計
男	256人 4.7%	61人 1.1%	25人 0.5%	31人 0.6%	9人 0.2%	10人 0.2%	78人 1.4%	470人 8.6%
女	188人 3.5%	9人 0.2%	15人 0.3%	57人 1.0%	27人 0.5%	29人 0.5%	47人 0.9%	372人 6.8%
計	444人 8.2%	70人 1.3%	40人 0.7%	88人 1.6%	36人 0.7%	39人 0.7%	125人 2.3%	842人 15.5%

(資料)総務省「国勢調査(2015年)」

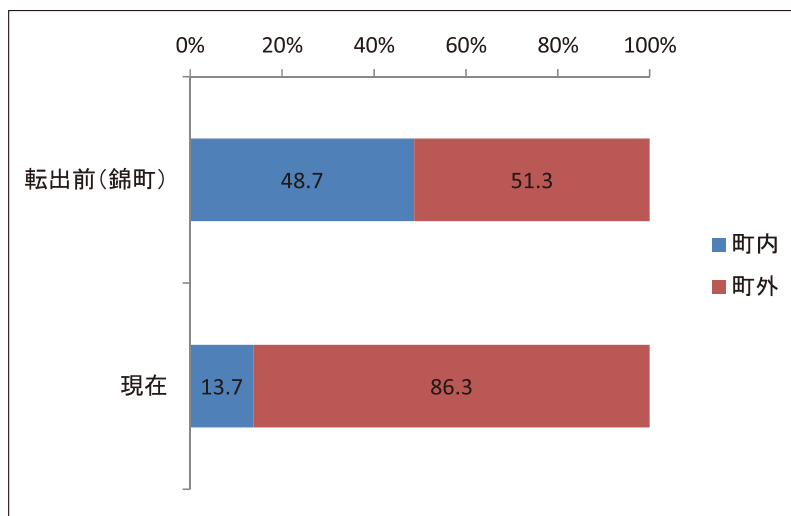
収入・職種の不マッチが課題

- アンケート調査より錦町への転入者の勤務地をみると、転入前と現在のいずれも町外に勤務する人が多い。町外で仕事を持ち、居住地として錦町を選んでいるとみられる。
- 一方、錦町を転出した方の勤務地をみると、転出前に比べ現在の町内勤務者の割合が低い。転出者については、勤務地・居住地ともに他地域となる割合が高いとみられる。
- 錦町での仕事について満足している点を見ると、休暇の取得や通勤時間の短さ、福利厚生などの充実など、職場環境の良さを挙げる割合が高い。一方、不満に感じている点としては、収入の少なさを挙げる割合が高い。また域外からの転入者については、自分の望んだ職種がないとの回答も比較的多い。

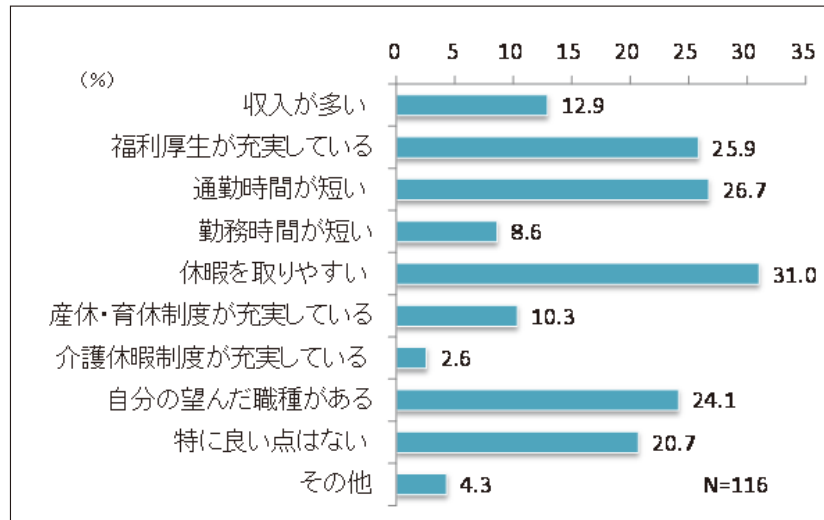
図表 転入者の勤務地の変化(転入者)



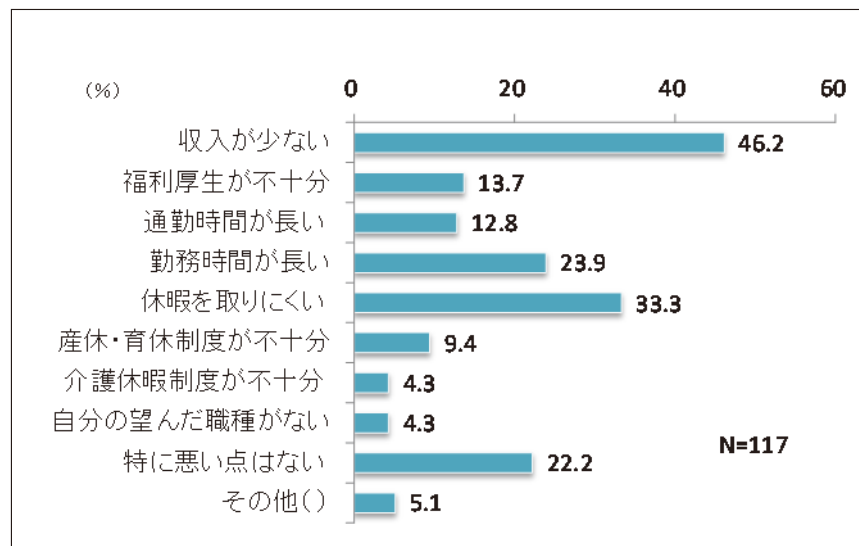
図表 転出者の勤務地の変化(転出者)



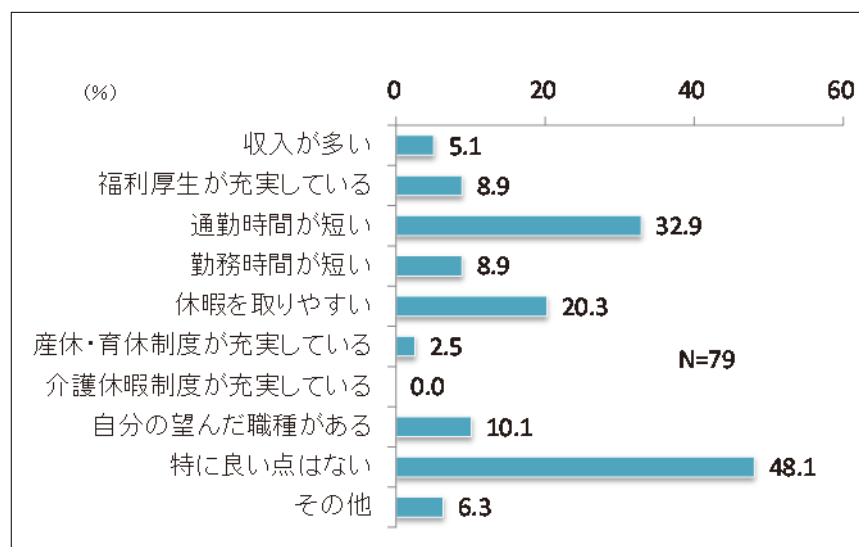
図表 仕事で満足している点(子育て世代)



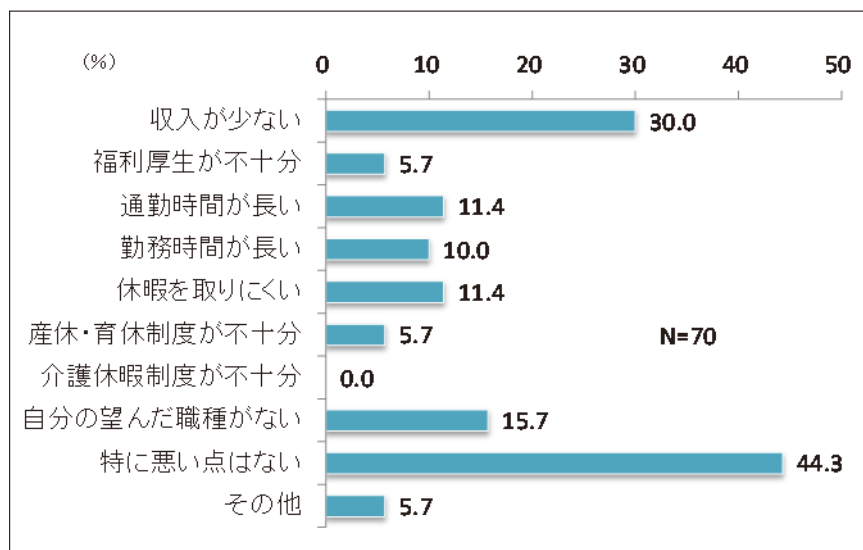
図表 仕事で不満に感じている点(子育て世代)



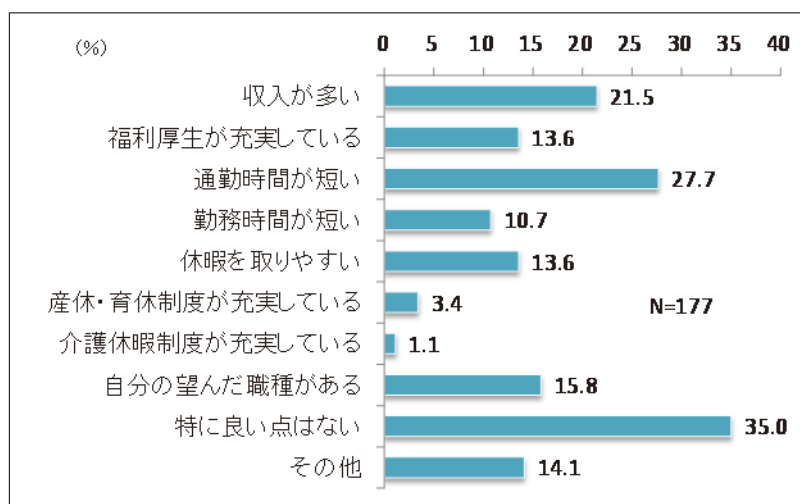
図表 仕事で満足している点(転入者)



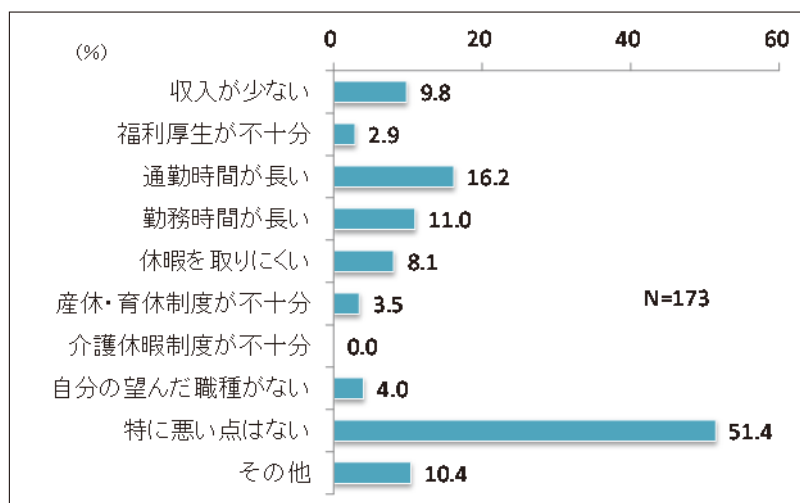
図表 仕事で不満に感じている点(転入者)



図表 仕事で満足している点(転出者)



図表 仕事で不満に感じている点(転出者)

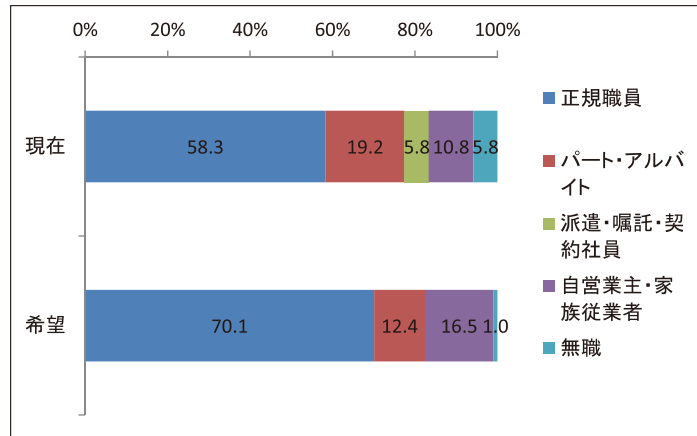


希望する働き方と現状にギャップ

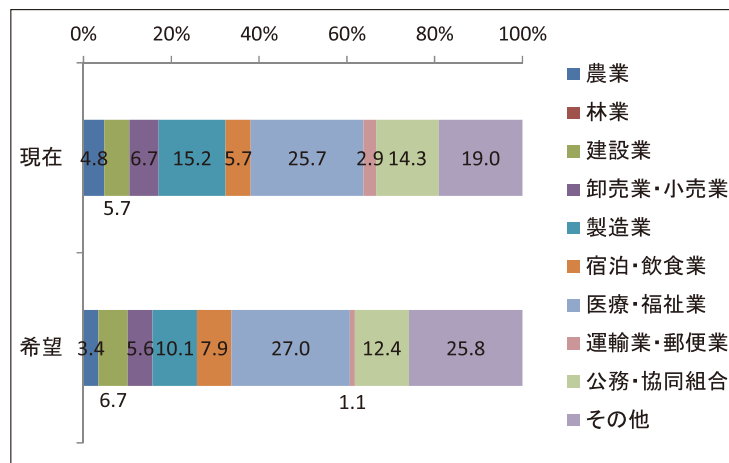
○現在の働き方と希望する働き方を比較すると、正規社員での雇用についてギャップが大きい。

○また、希望勤務地として町内が6割以上となっている一方、現状は約4割となっている。町内で働きたい方は多いが、収入や職種のミスマッチから町内に勤務できない方が多いとみられる。

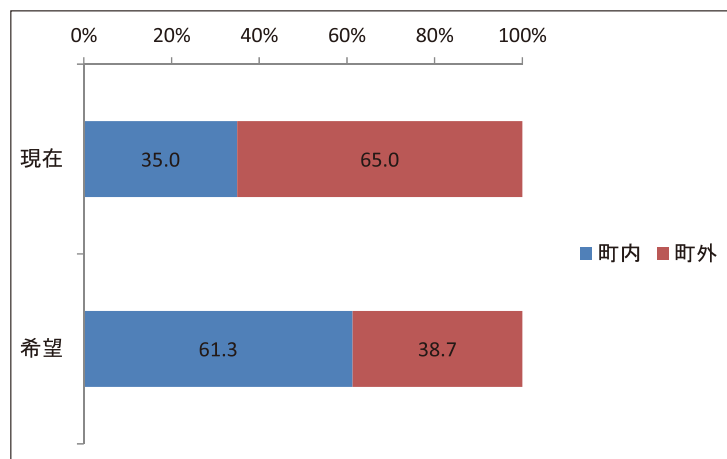
図表 希望する働き方(雇用形態)



図表 希望する働き方(業種)



図表 希望する働き方(勤務地)



第2章 人口の将来展望に必要な調査

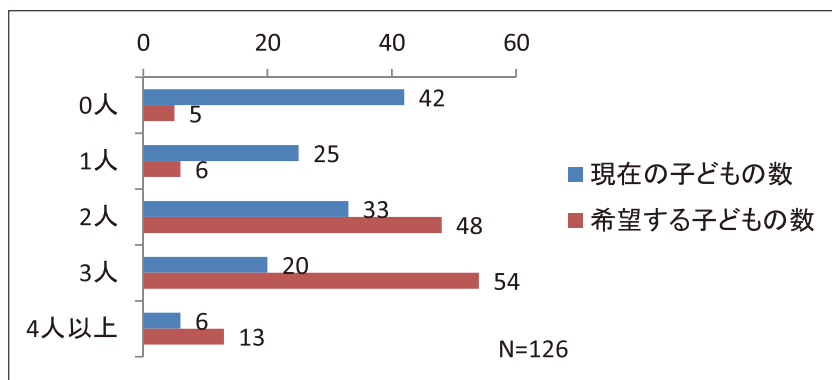
1 町民の出産、子育てに関する意識

現状より多い「希望する子どもの数」

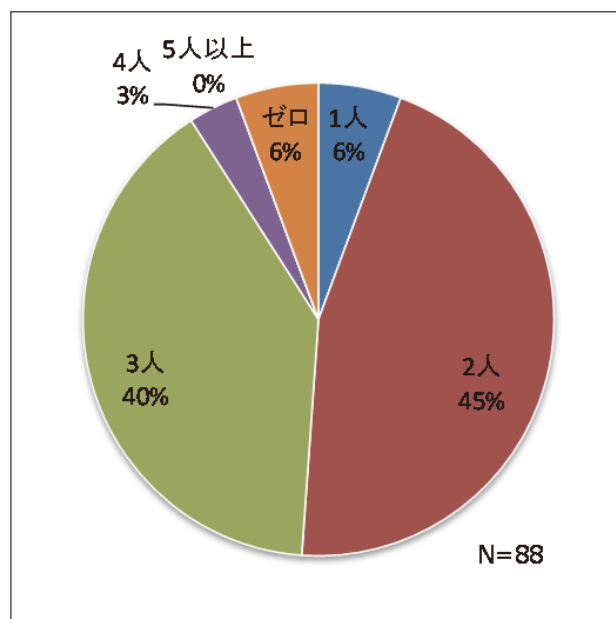
○錦町に住む子育て世代(18～49歳までの男女)へのアンケート調査によると、子育て世代が希望する子どもの数は、現在の子どもの数に比べ多い。希望する子どもの数の平均は、1人(=1世帯)あたり2.56人となった。また、高校生が将来希望する子どもの数は2.30人となっており、現状の錦町の平均的な子どもの数より多い。

○子どもを増やせない要因としては、「経済的に不安があるため」が最も高い。また、次いで「配偶者がいない」が高いこともわかった。子育て世帯の7割以上は、それらの阻害要因がなくなった場合、子どもを作りたいとしている。

図表 現在の子どもの数、希望する子どもの数(子育て世代)

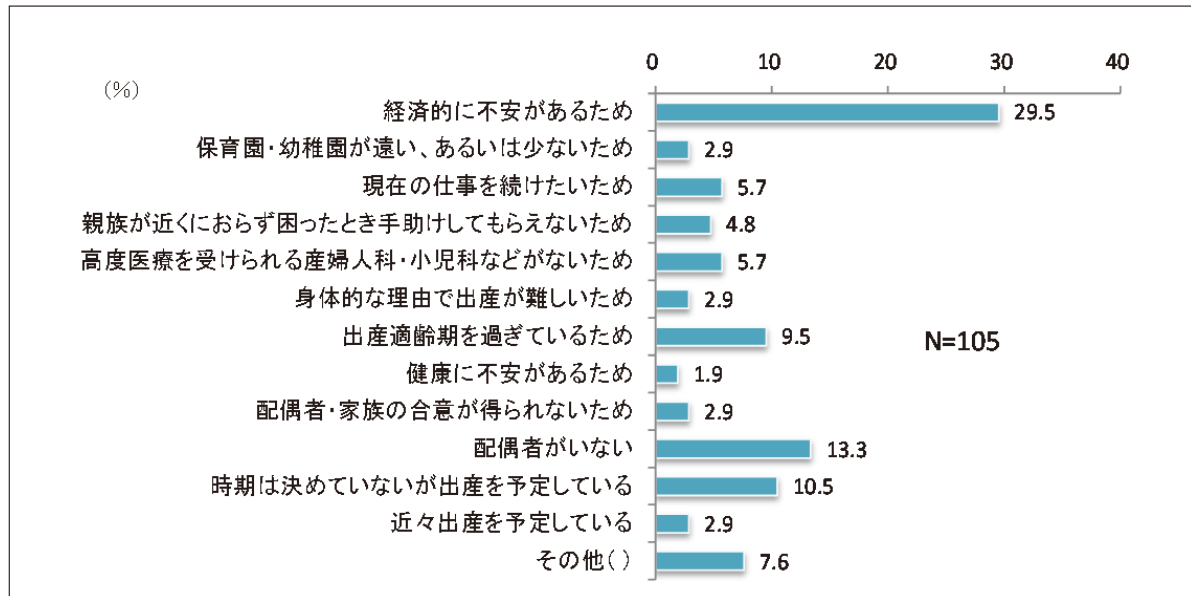


図表 高校生が希望する子どもの数

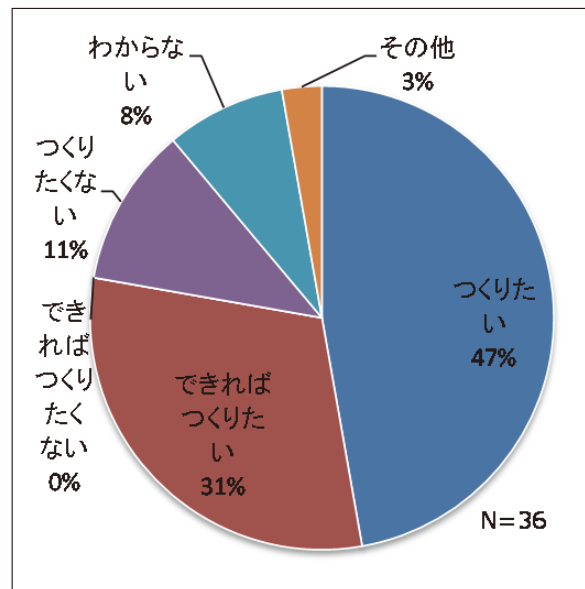


※希望する子どもの数の平均は2.30人

図表 現在の子どもの数が希望する子どもの数より少ない理由



図表 阻害要因がなくなった場合の、子どもをつくる意志

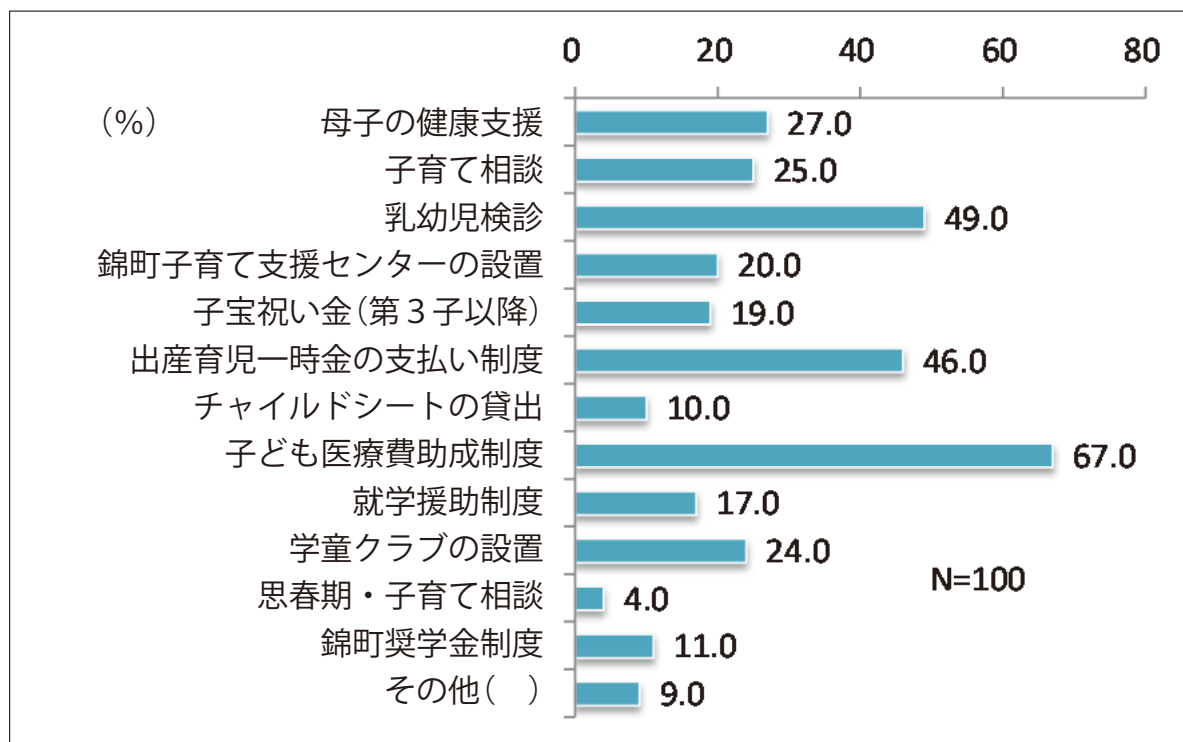


さらなる子育て施策の充実を希望

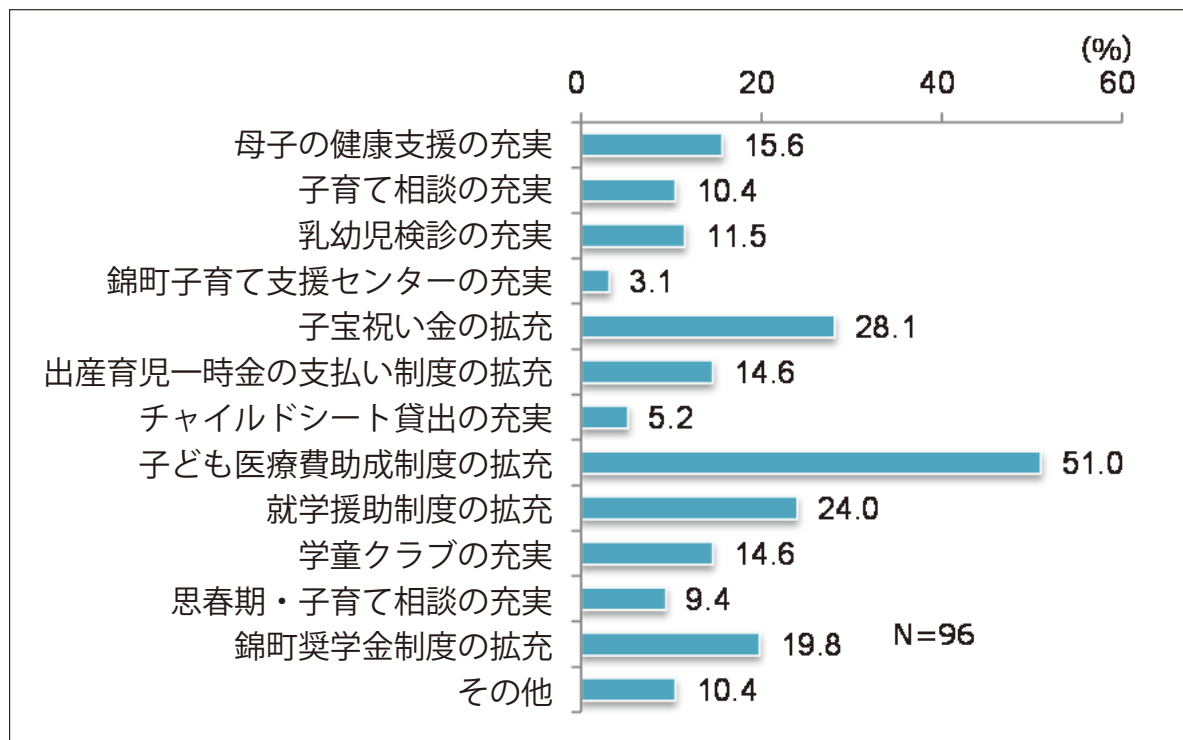
○役に立っている錦町の子育て施策は、「子ども医療費助成制度」「乳幼児検診」「出産育児一時金の支払い制度」が上位となっている。拡充してほしい施策は、「子ども医療費助成制度」「子宝祝い金」「就学援助制度」が上位である。

○錦町の子育て環境として、自然豊かであることや治安の良さ、空気や食べ物の新鮮さ、親族が近くにいること等が良い点として挙げられている。一方、不安な点として、収入の少なさや医療環境が挙げられている。また、収入については「高校生が望む子育て環境」としても上位となっている。

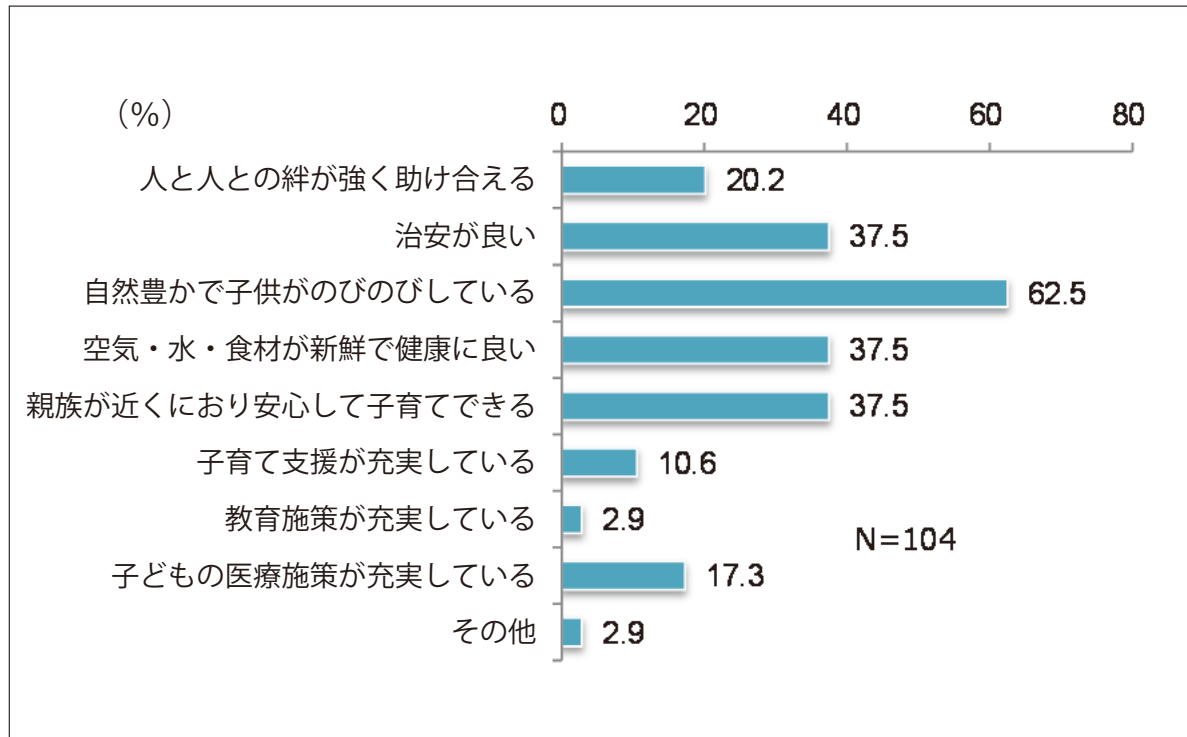
図表 役に立っている子育て施策



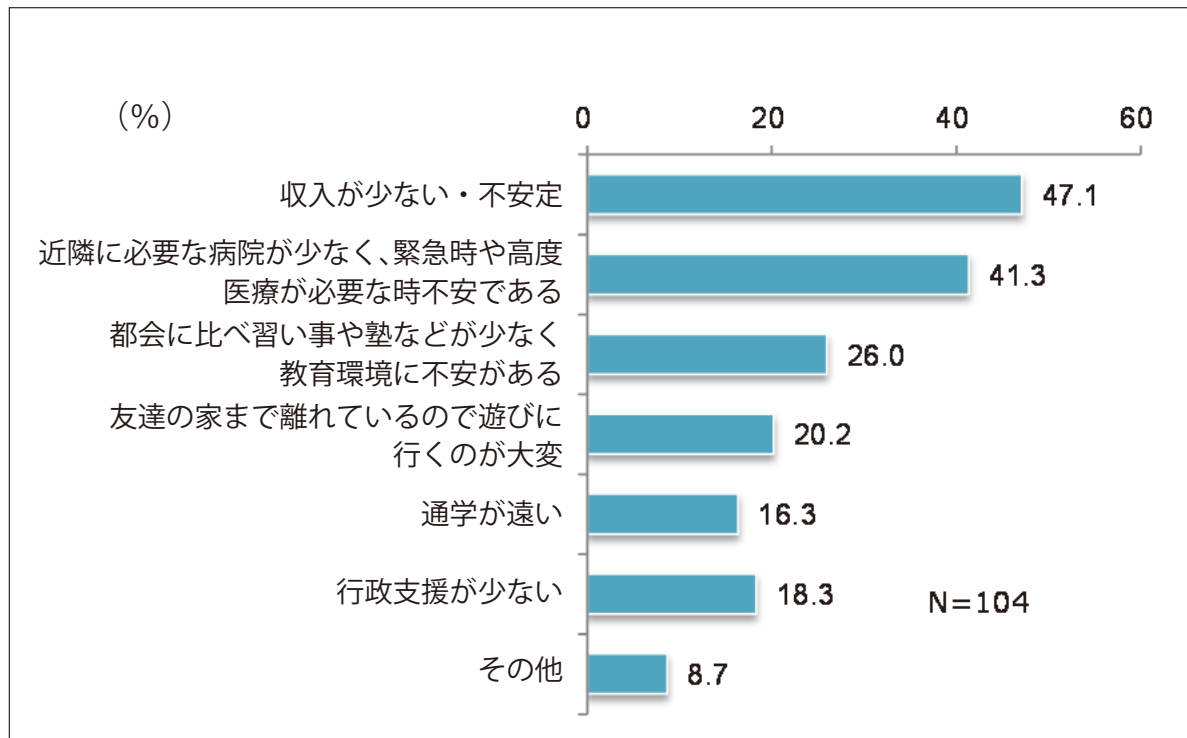
図表 拡充してほしい子育て施策



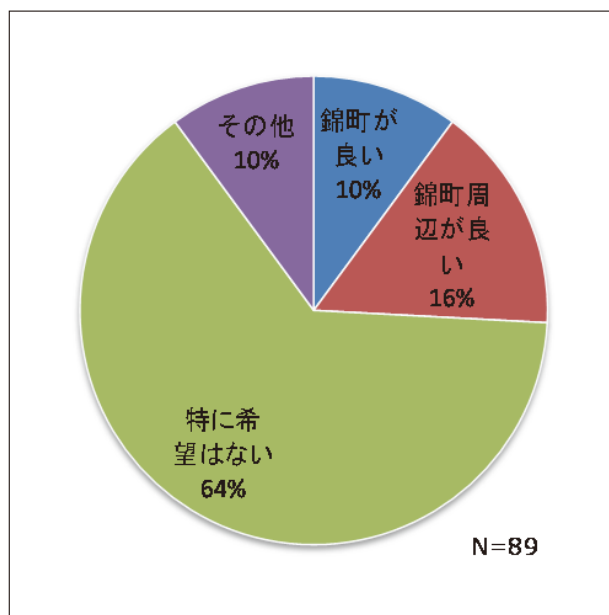
図表 子育て環境の良い点



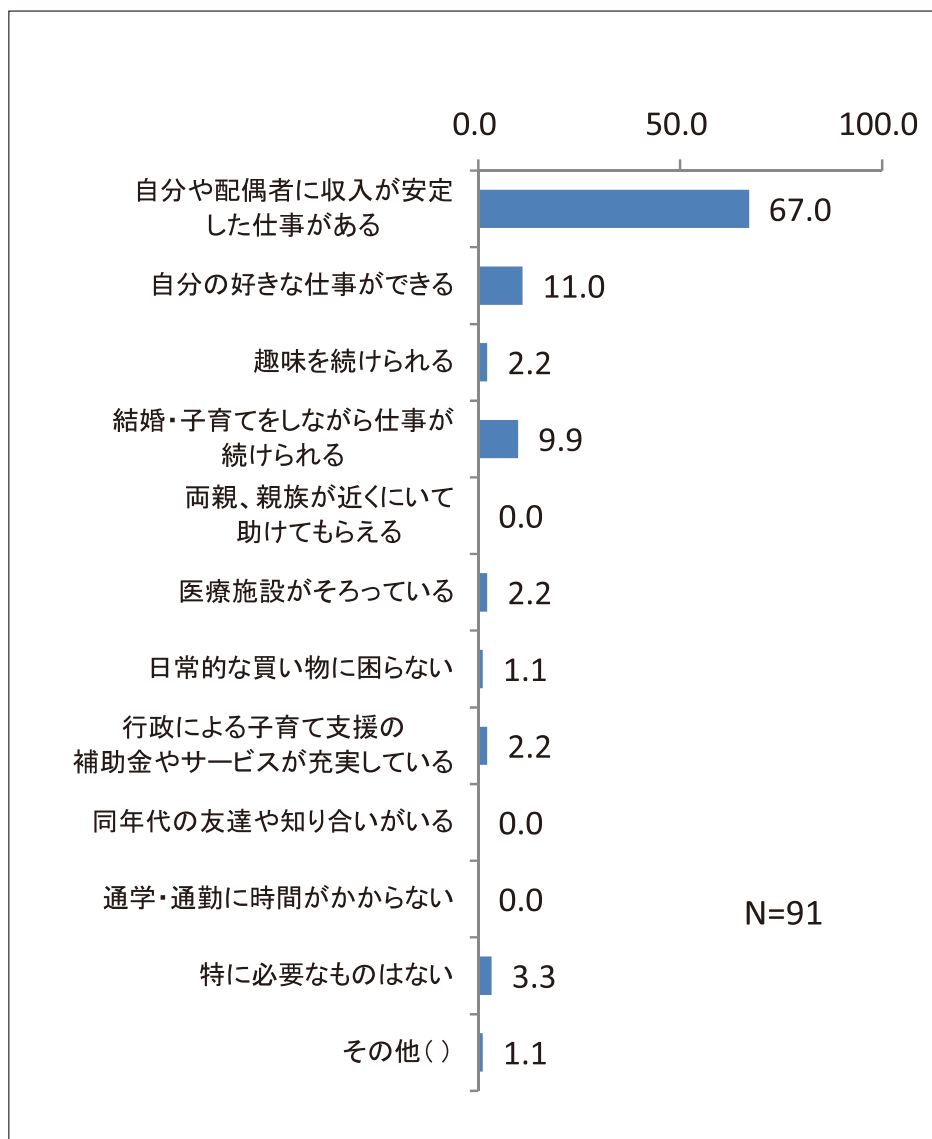
図表 子育て環境の不安な点



図表 子育てする場所の意向(高校生)



図表 錦町で子育てするために必要なこと(高校生)



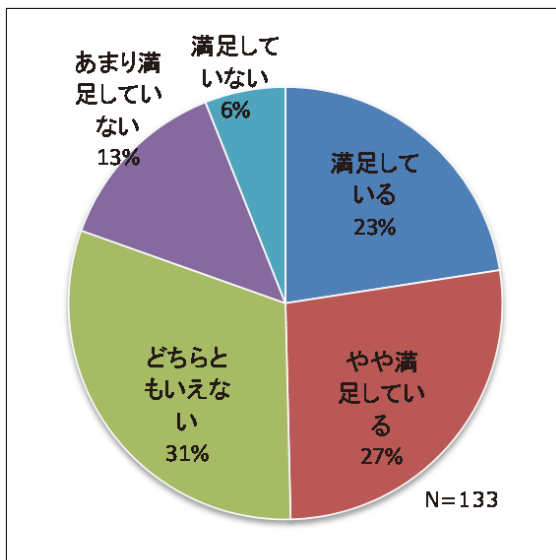
2 町民の移住に関する意識

高い錦町の生活満足度

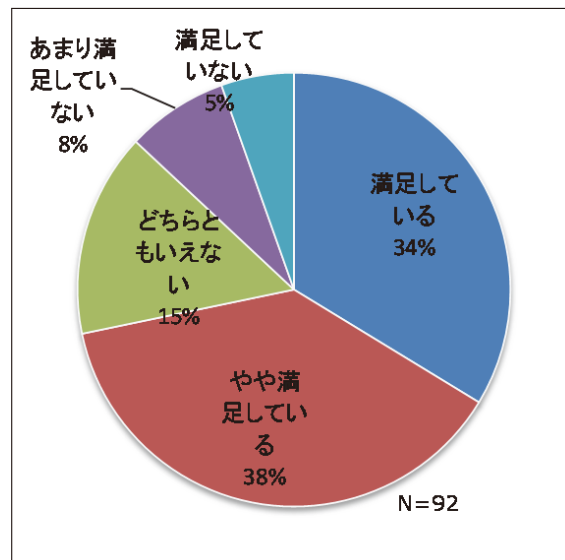
○錦町への居住者及び過去5年に錦町から転出した方(18歳以上)へのアンケート調査によると、錦町での生活の満足度は、いずれのアンケート対象においても「満足している」「やや満足している」「(住みやすかった)」「どちらかと言えば住みやすかった)」が多く、概ね満足していることが分かる。

○満足している要因は、日常的な買物の利便性、住環境の充実、子育て・教育環境の充実、地域行事・近所づきあいの充実などである。一方、満足していない理由として、交通の便、娯楽施設の不在が挙げられている。また、地域行事・近所づきあい、交通の便、子育て・教育環境については、満足している要因として挙げられている一方、不満に感じているという意見も多数ある。

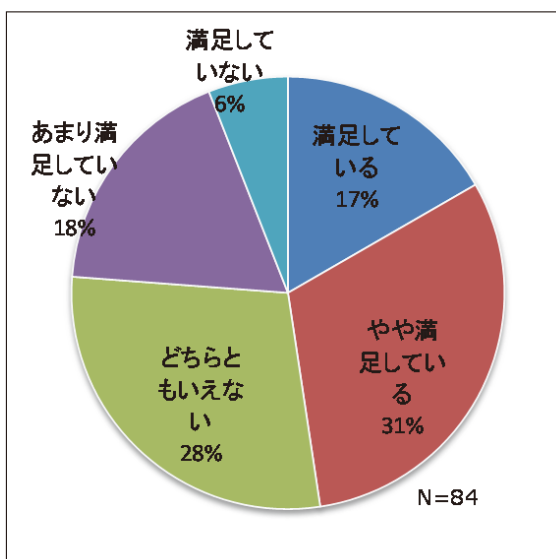
図表 生活の満足度(子育て世代)



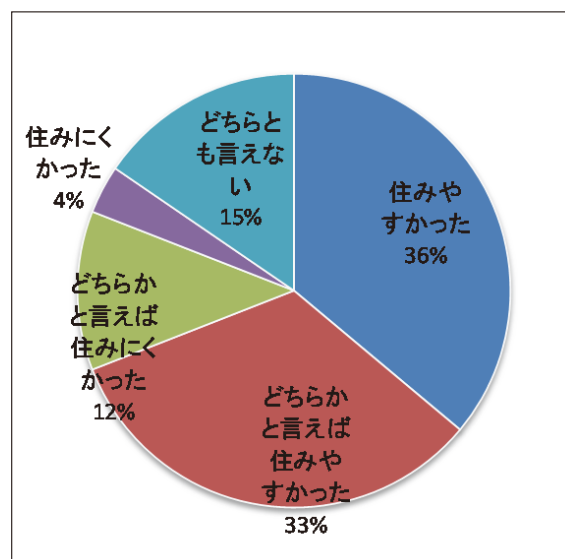
図表 生活の満足度(高校生)



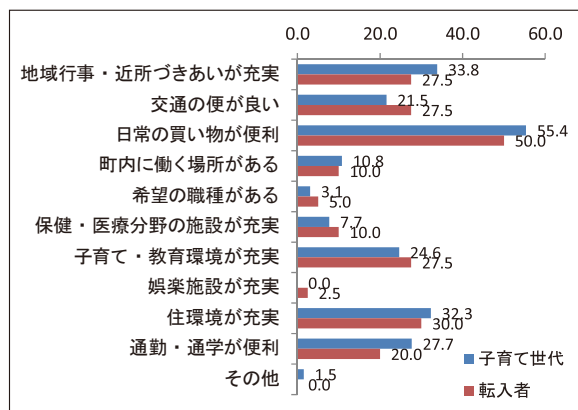
図表 生活の満足度(転入者)



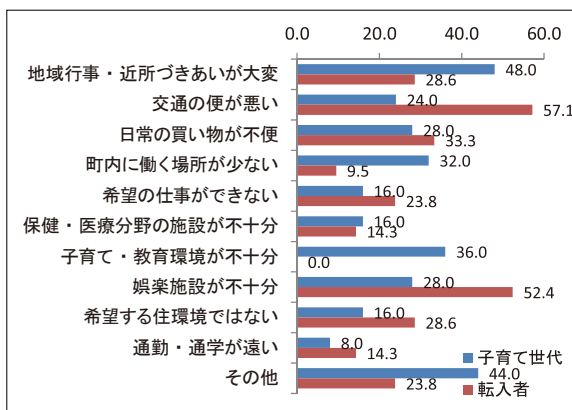
図表 錦町の住みやすさ(転出者)



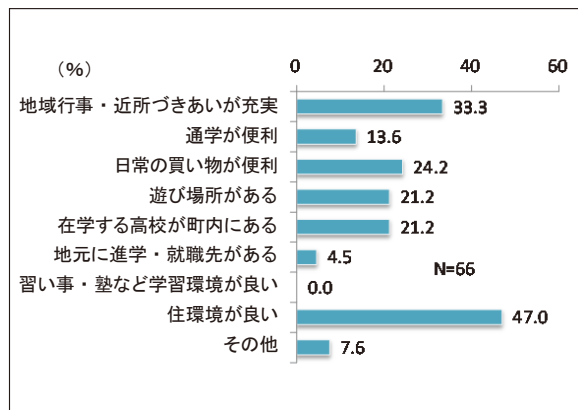
図表 満足している理由(子育て世代、転入者)



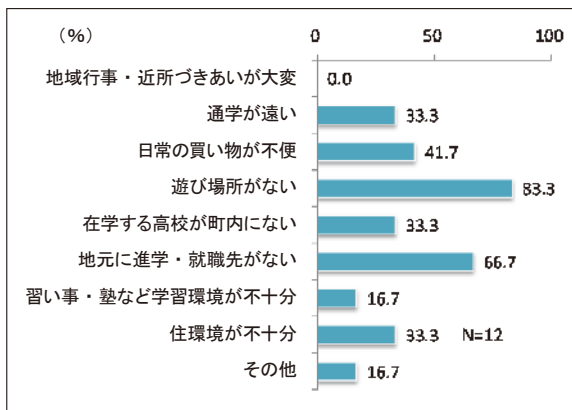
図表 満足していない理由(子育て世代、転入者)



図表 満足している理由(高校生)



図表 満足していない理由(高校生)

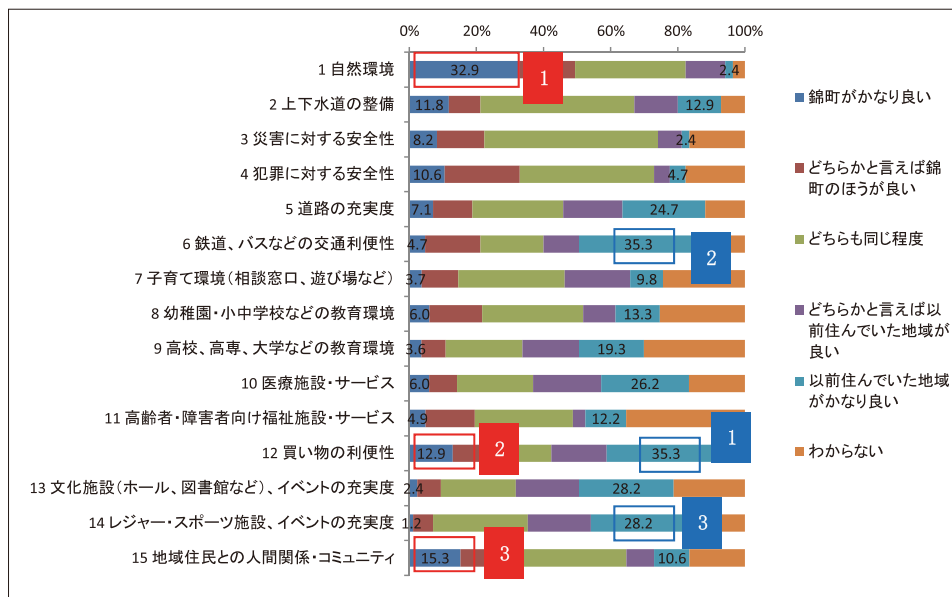


他地域に比べ、交通・医療環境に課題

○2010年~2014年に錦町に転入した方及び過去5年に錦町を転出した方に対し、錦町の生活環境を聞いたところ、他地域と比較して「自然環境」「人間関係・コミュニティ活動」に対する評価が高い。一方、錦町より他地域が良い点として「交通利便性」「医療施設・サービス」「レジャー・スポーツ施設・イベント」等が挙げられている。

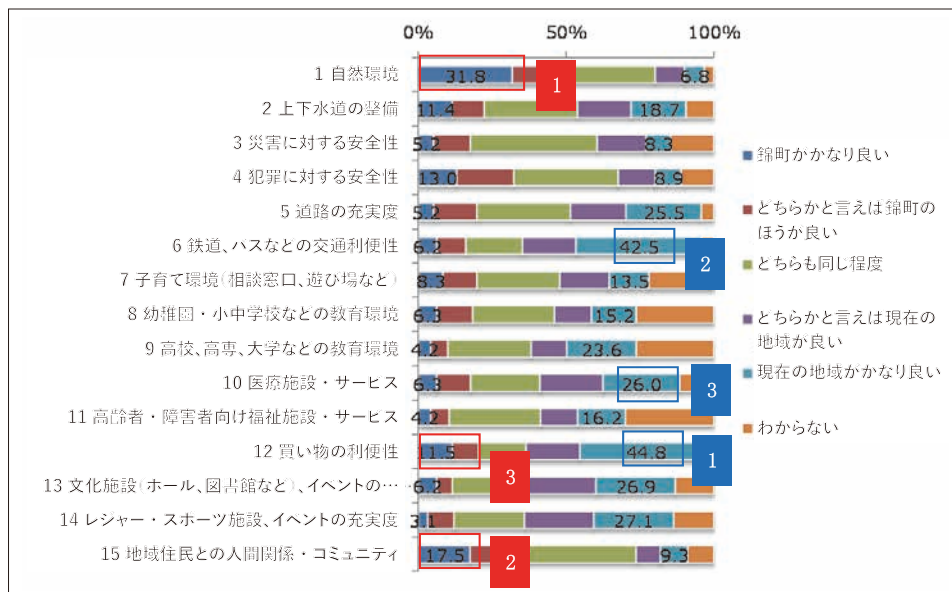
○買物の利便性については、特に良い点として評価されている一方、他地域の方が良い点としても挙げられている。特に他地域からの転出者について、他地域の方が良かったと答える割合が高い。

図表 他地域と錦町との比較(転入者)



※番号(赤)は特に錦町が良い点、番号(青)は特に他地域が良い点

図表 他地域と錦町との比較(転出者)

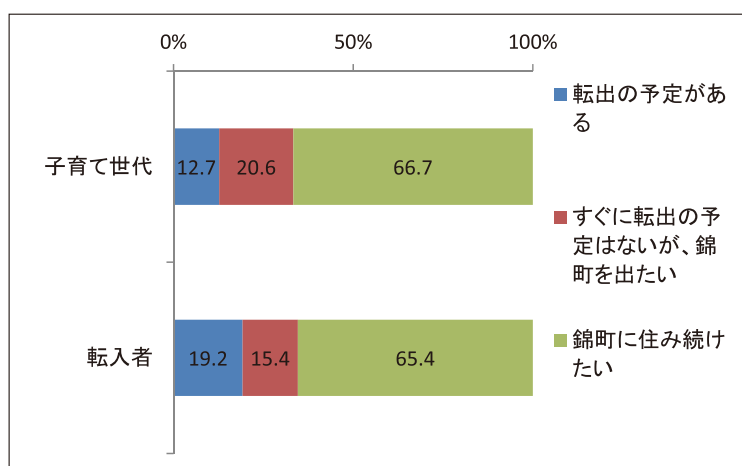


※番号(赤)は特に錦町が良い点、番号(青)は特に他地域が良い点

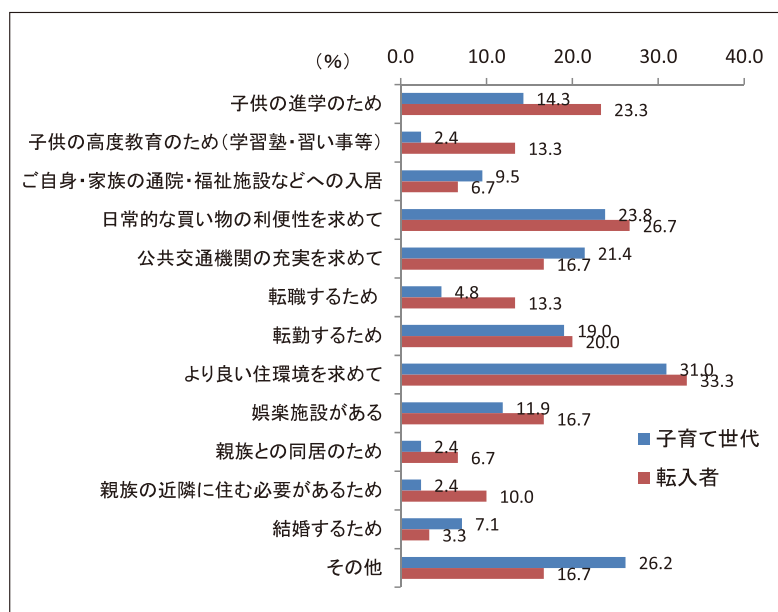
定住意向は強いが、生活環境、雇用・仕事環境の整備に課題

- 錦町での定住意向を聞いたところ、錦町に住み続けたい割合は子育て世代、転入者とも65%を超えており、定住意向は高い。
- 一方、錦町から転出したい理由として、「より良い住環境を求めて」「日常的な買物の利便性を求めて」「公共交通機関の充実を求めて」が多い。また、転入者については、「子どもの進学のため」の割合も高い傾向がある。
- 錦町に定住するための条件については、「仕事で十分な収入が得られる」「子どもの教育環境が充実している」「出産・子育てに関する行政支援が充実している」がどのアンケート対象でも上位となる傾向にある。また、高校生については、「希望する職種・条件の仕事がある」が上位となっている。町外居住者(転出者)が錦町に転入するための条件としても、「希望する職種・条件の仕事がある」「仕事で十分な収入が得られる」といった仕事環境に関する条件が上位である。

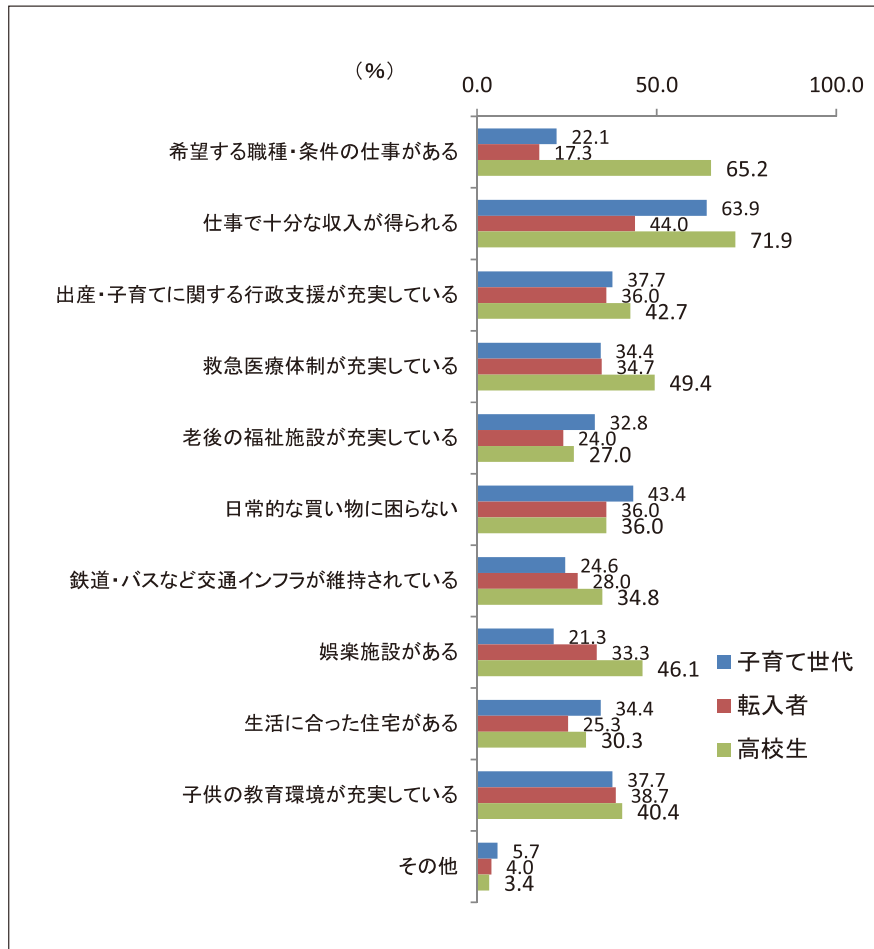
図表 錦町での定住意向(子育て世代、転入者)



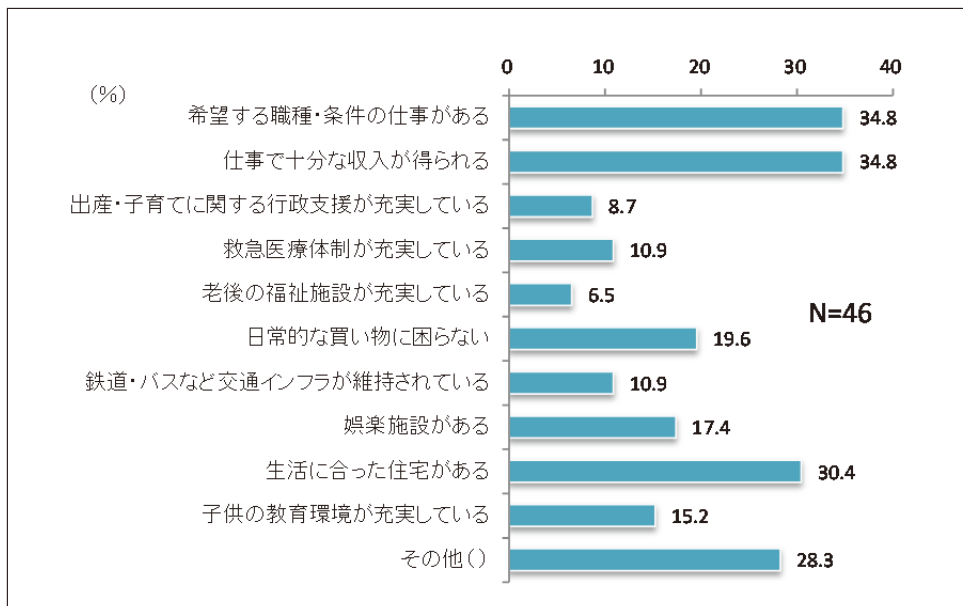
図表 錦町から転出したい理由(子育て世代、転入者)



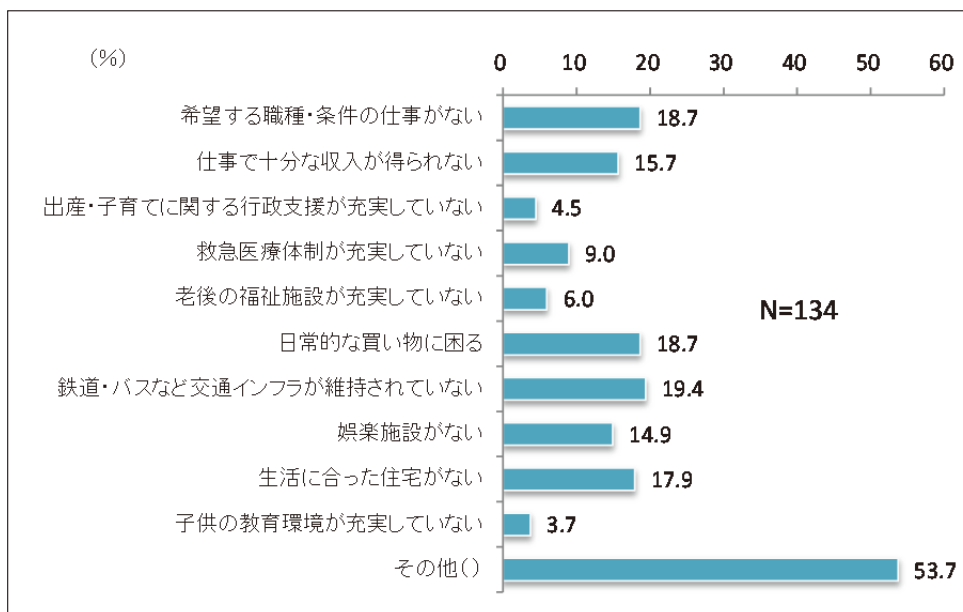
図表 錦町に定住するための条件(子育て世代、転入者、高校生)



図表 錦町に転入するための条件(転出者)



図表 錦町に住みたいと思わない理由

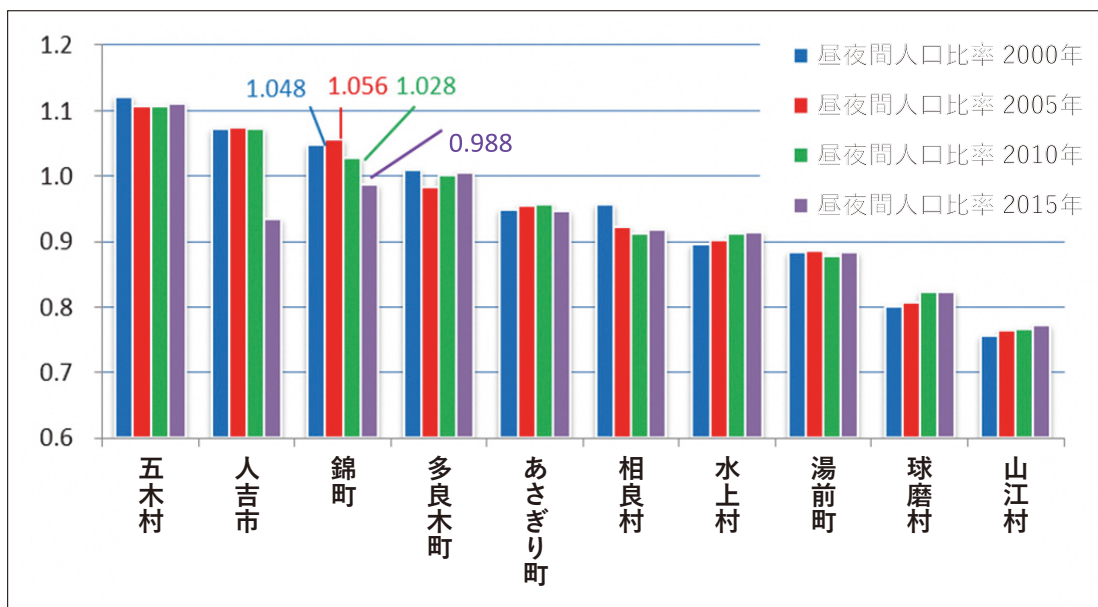


3 球磨地域内の人口流入・出

昼夜間人口比率の推移

錦町の昼夜間人口比率は、2015年は1.000を下回り、周辺への通勤・通学が多くなったことが分かる。

図表 球磨地域の市町村別昼夜間人口比率



(資料)総務省「国勢調査」

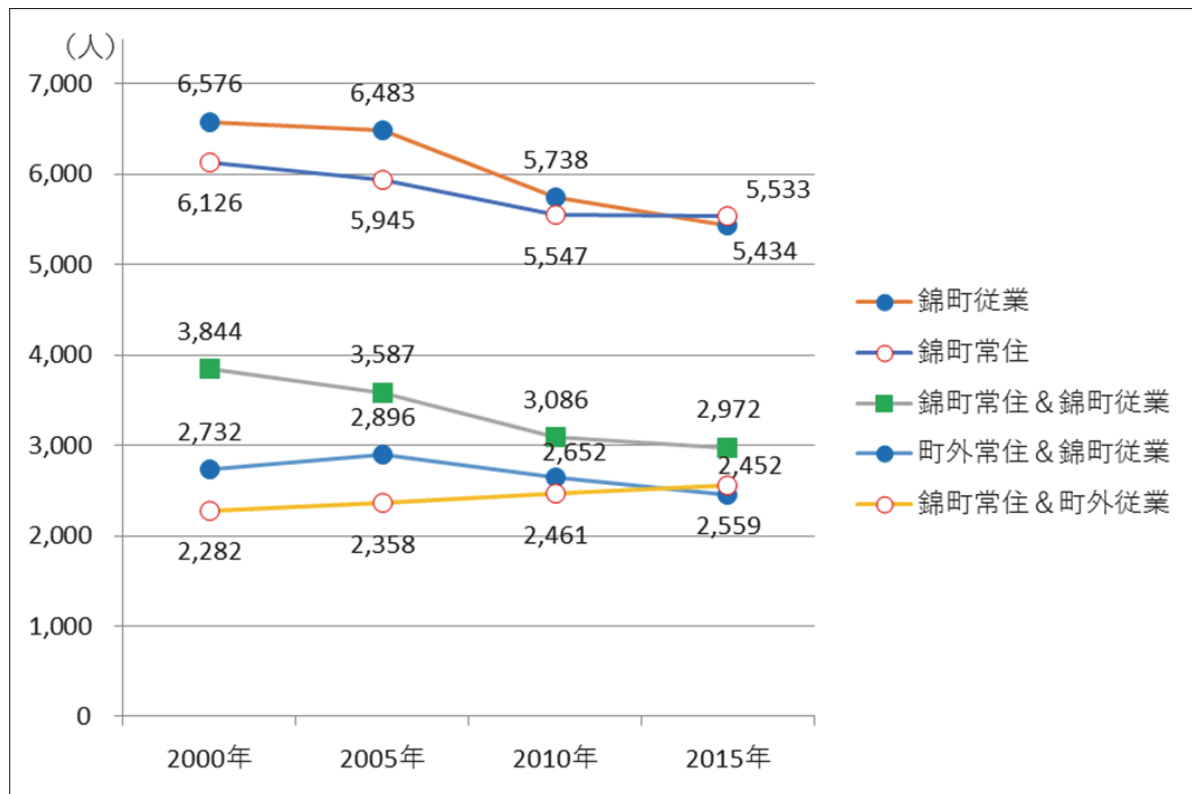
錦町の常住者数、従業者数の推移

○錦町に従業している15歳以上の就業者数は、2000年の6,576人から2010年には5,434人と1,142人も減少(▲17.4%)となっている。特に、錦町常住かつ錦町従業者が3,844人から2,972人と872人の減少(▲22.7%)が目立つ。

○錦町に常住している15歳以上の就業者数も、2000年の6,126人から2010年には5,533人へと593人減少(▲9.7%)しているが、錦町常住で町外に従業している人数は2,282人から2,559人と277人増加(+12.1%)している。

○これらから、町内での雇用の喪失により、町外へ仕事を求める人、そのために住まいを町外に移す人が増えている状況が分かる。

図表 錦町に常住、従業している15歳以上の就業者数の推移

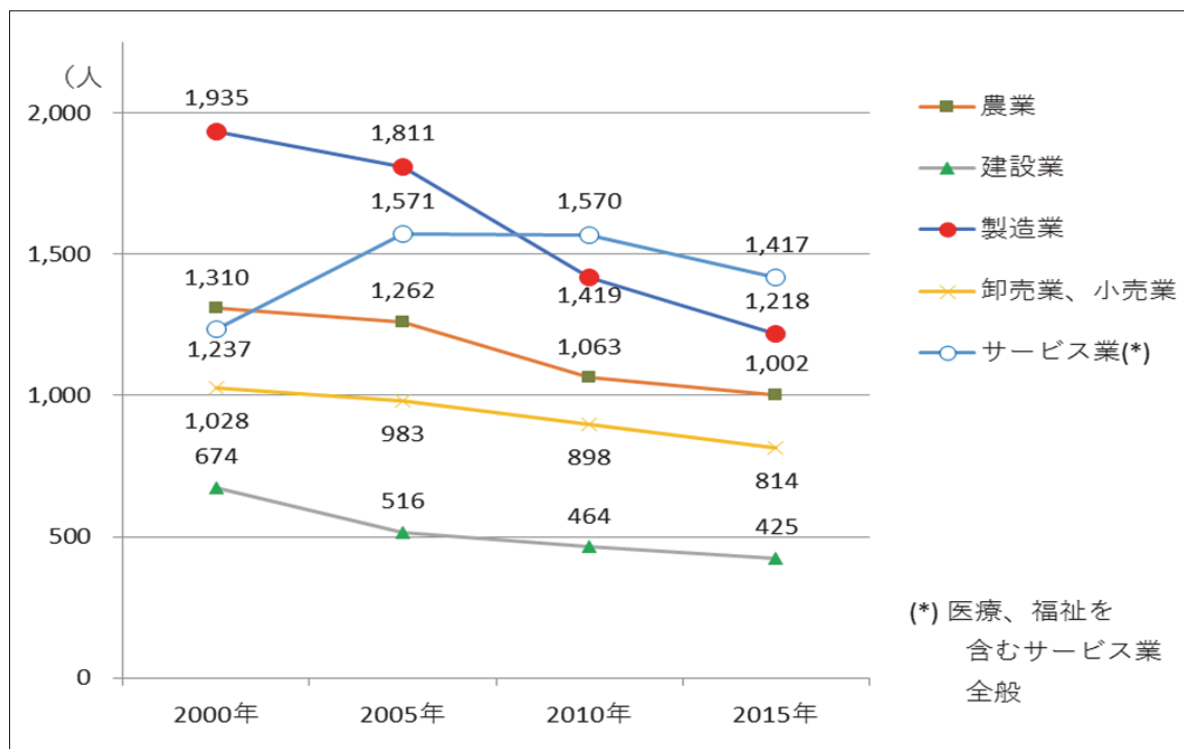


(注) 2015年は従業地不明者を除く
(資料)総務省「国勢調査」

○主な産業における従業者数の推移をみる。全産業での減少(1,142人)のうち、製造業(▲717人、▲37.1%)が6割以上(62.8%)を占める。次に減少数が多いのが農業(▲308人、▲23.5%)。減少率が最も大きかったのも建設業であった。

○逆に、医療、福祉を含むサービス業*²は180人増加(+14.6%)している。

図表 主な産業における錦町従業者数の推移



(資料)総務省「国勢調査」

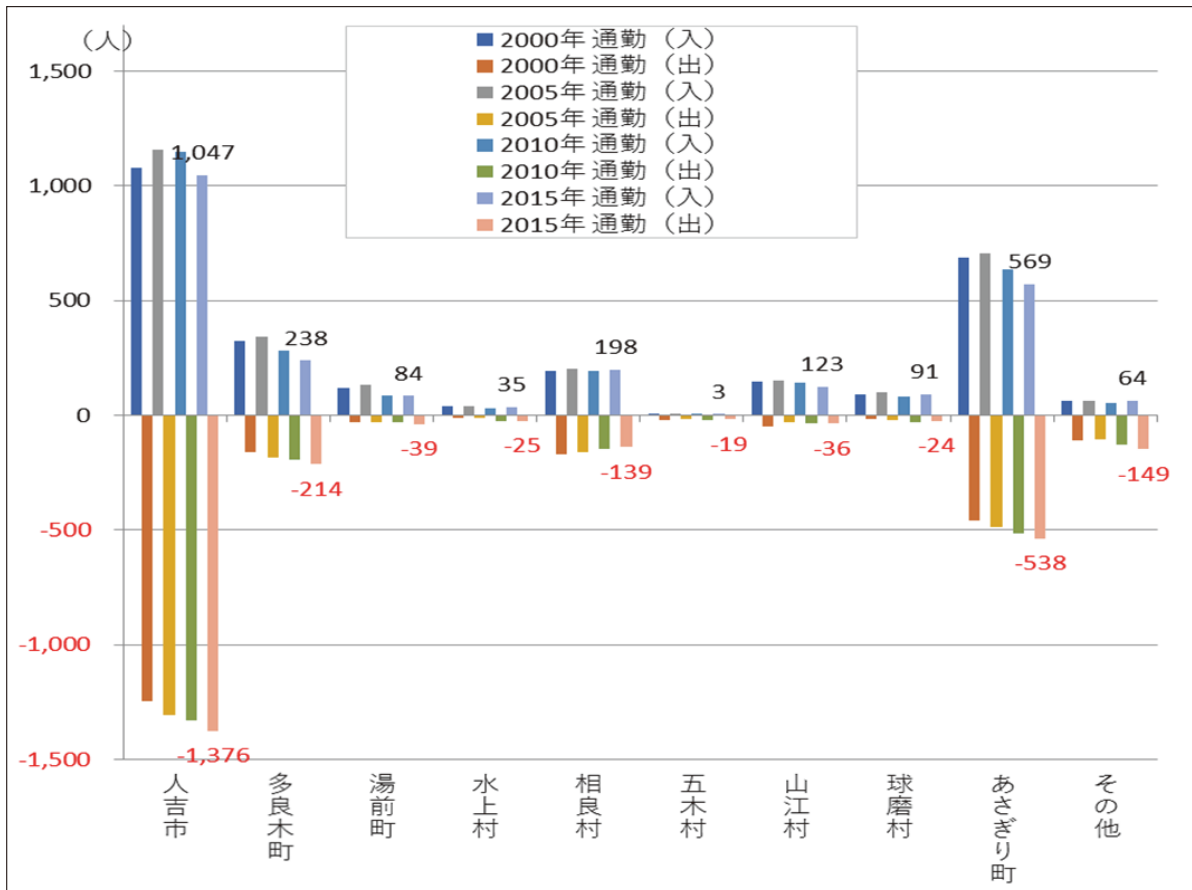
* 2 2000年の統計では、現在の日本標準産業分類のL(学術研究, 専門・技術サービス業)からR(サービス業(他に分類されないもの))までがサービス業として1つにまとめられているため、ここでもまとめて比較する。

通勤者数ならびに通勤率の推移

○錦町で従業している人で球磨地域以外からの通勤者は2015年で64人(1.2%)と少なく、ほとんどが球磨地域常住者である。このうち、錦町常住者(2015年で2,972人、54.7%)を除くと、その多くは人吉市常住(同1,047人、19.3%)とあさぎり町(同569人、10.5%)である。

○錦町に常住している人で球磨地域以外への通勤者も2015年で149人(2.7%)と少なく、ほとんどが球磨地域従業者である。このうち、錦町従業者(2015年で2,972人、53.7%)を除くと、その多くは、やはり、人吉市従業(同1,376人、24.9%)とあさぎり町(同538人、9.7%)であり、その人数は増加傾向にある。

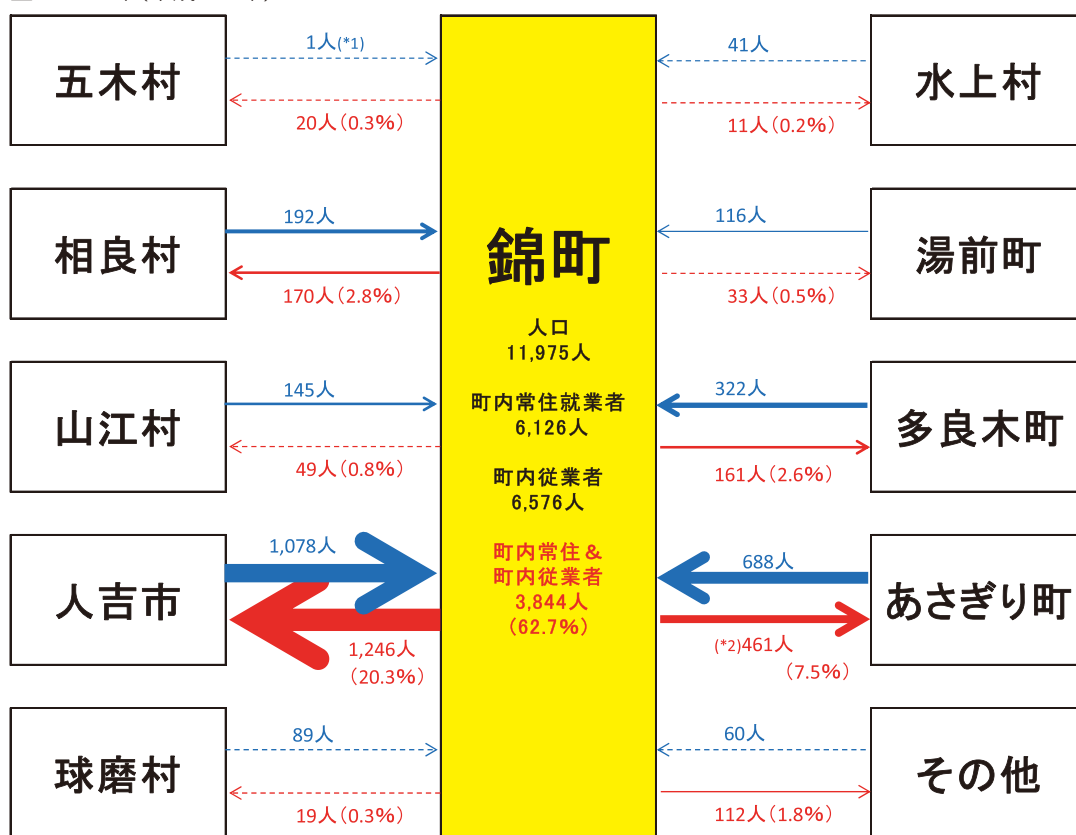
図表 町外から錦町への通勤者数、錦町から町外への通勤者数の推移



(注) 2015年は従業地不明者を除く

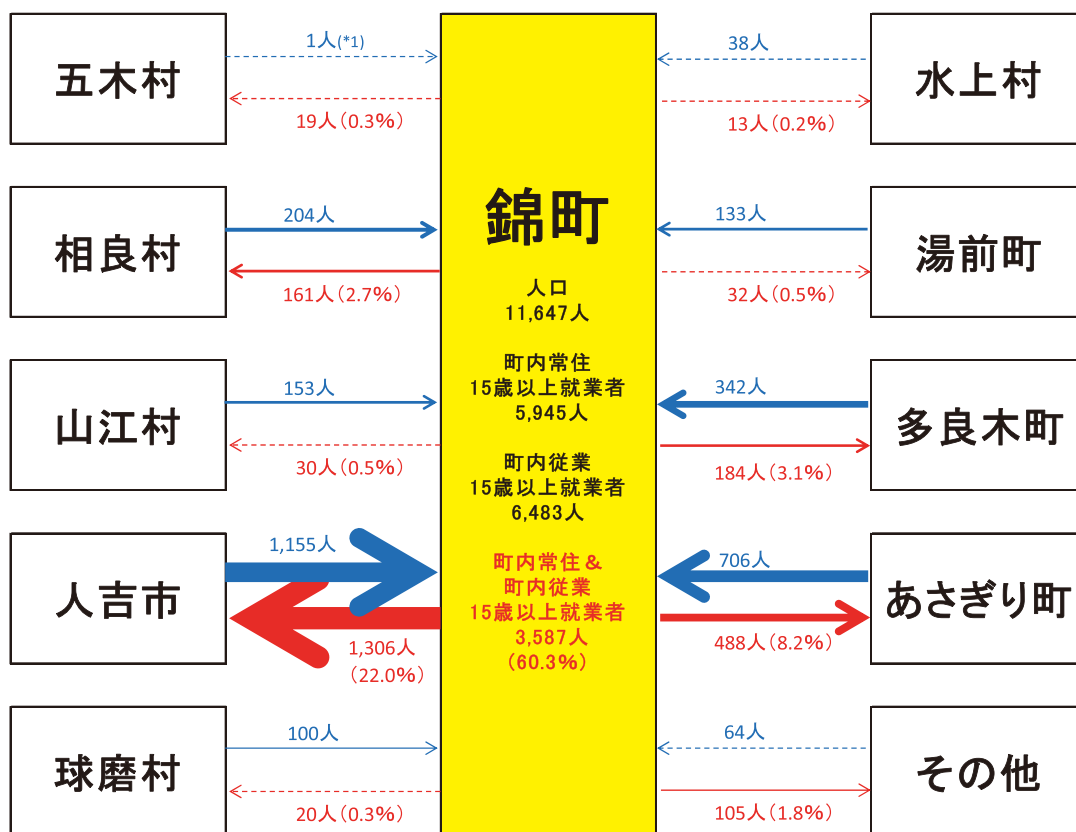
(資料) 総務省「国勢調査」

■2000年(平成12年)



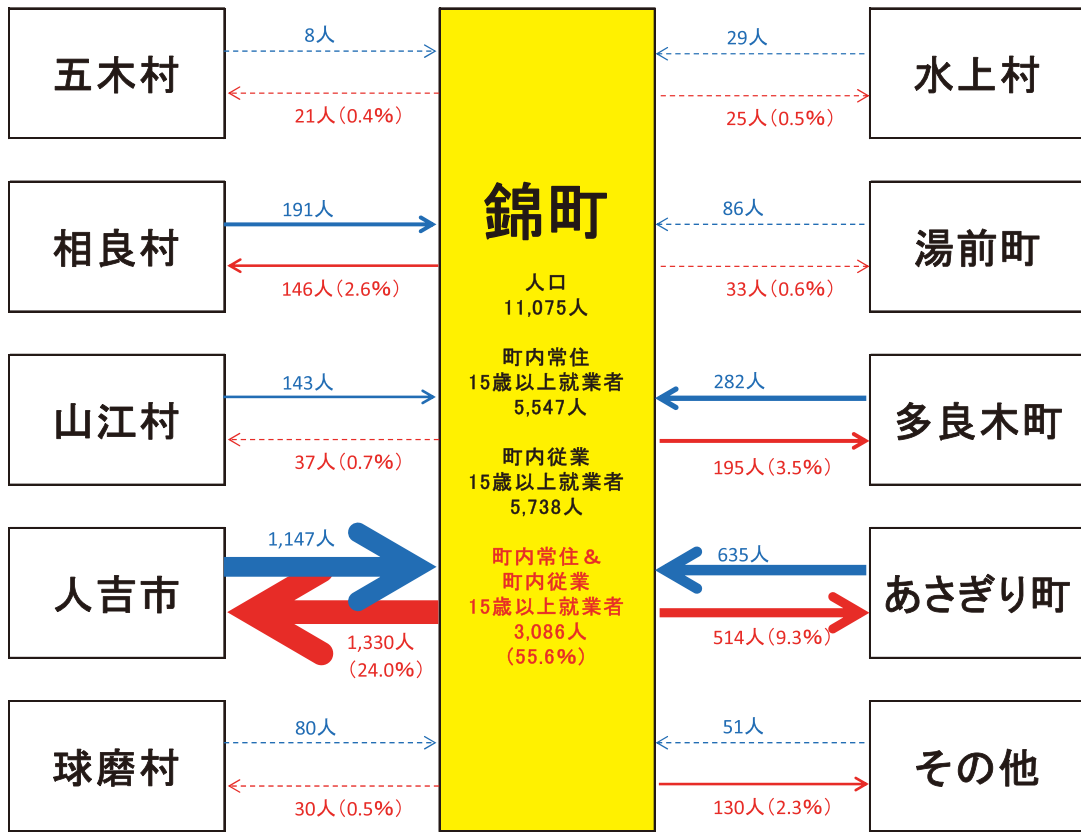
(* 1) 五木村から錦町への通勤者数が現存の国勢調査では「その他」に含まれているため、他の資料を参考に1名と類推。
 (* 2) 錦町から旧須恵村への通勤者数が現存の国勢調査では「その他」に含まれているため、他の資料を参考に4名と類推。

■2005年(平成17年)



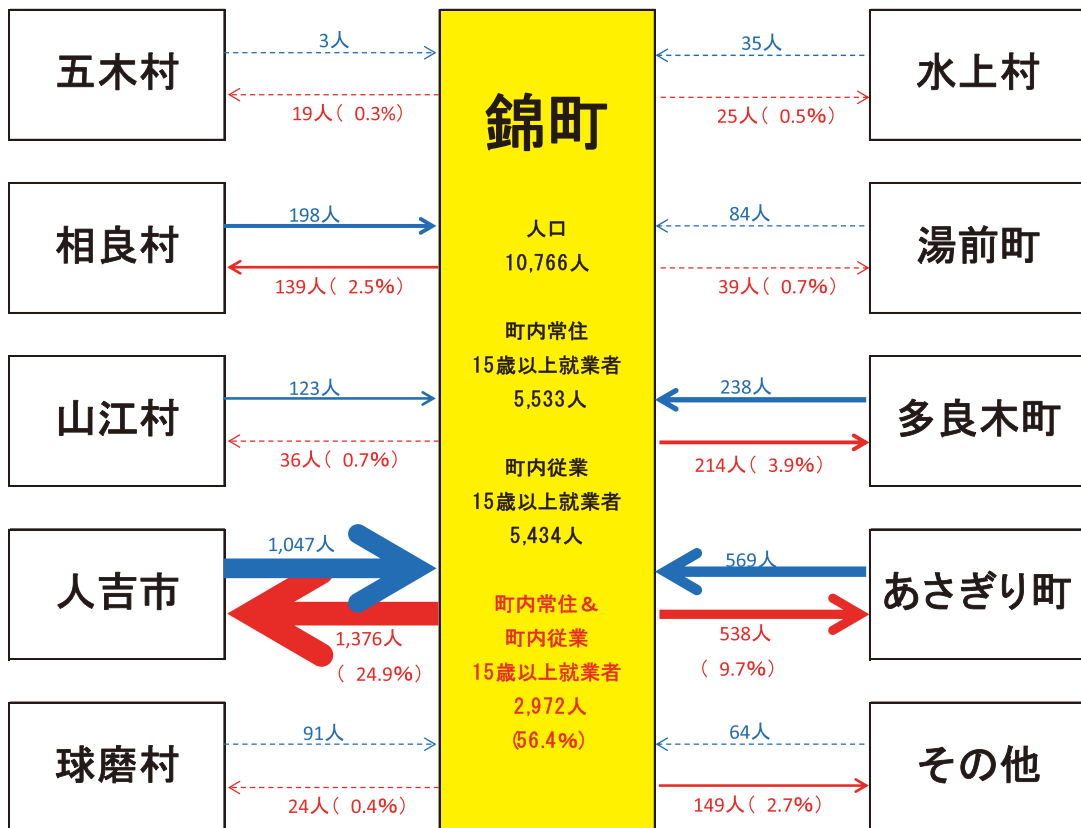
(* 1) 五木村から錦町への通勤者数が現存の国勢調査では「その他」に含まれているため、他の資料を参考に1名と類推。

■2010年(平成22年)



※この図表内の「人口」を除く全ての数値において、従業地不明者を除く(錦町常住で従業地不明は38人)。

■2015年(平成27年)



4 錦町及び球磨地域の将来人口推計

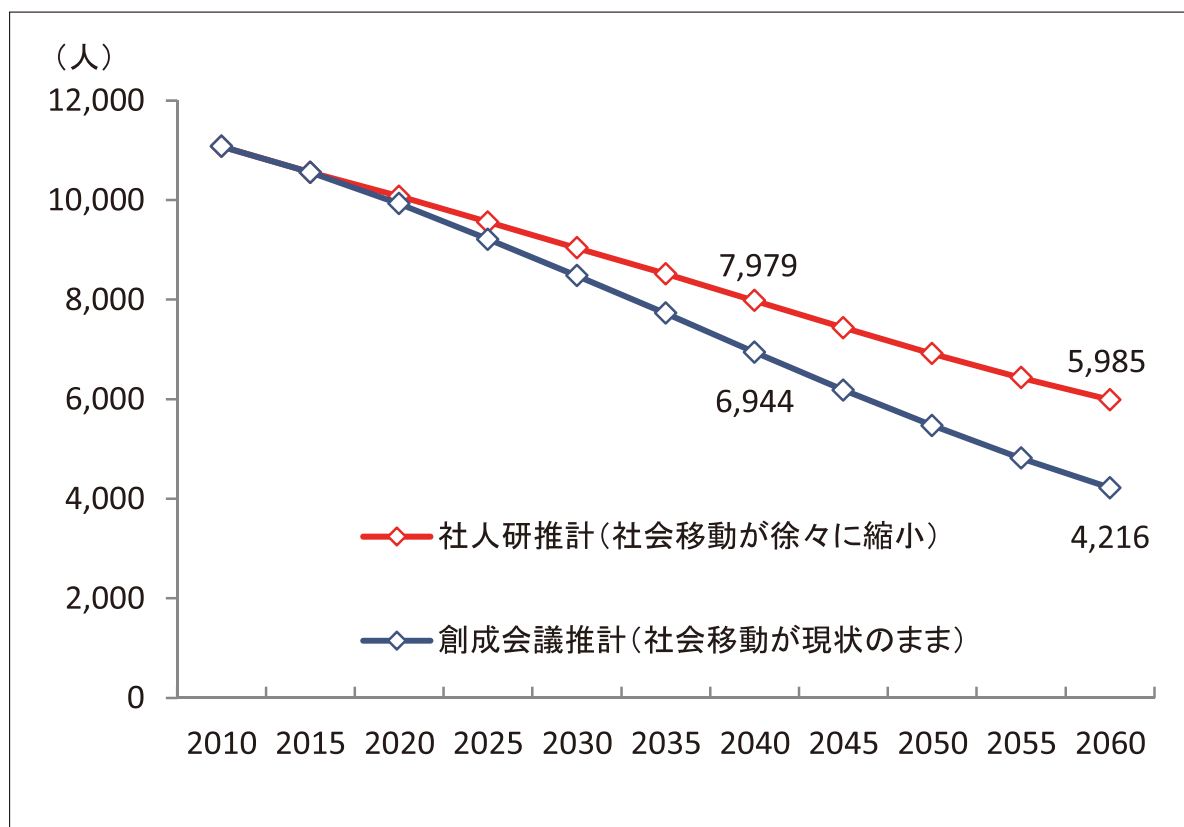
将来人口の推計

- 錦町の人口は、2040年に約8,000人、2060年に約6,000人まで減少すると推計される（社人研推計）
- 社会移動（人口の転出）が今のまま続けば、2040年に約7,000人、2060年に約4,200人まで減少する可能性がある（創成会議推計）
- 錦町を含む球磨地域では、2010年時点の人口約94,700人が、2040年に約54,800人、2060年に約32,000人まで減少する可能性がある（創成会議推計）
- 錦町は出生率が高いため、人口の転出を抑制することで、人口減少を抑えることができる

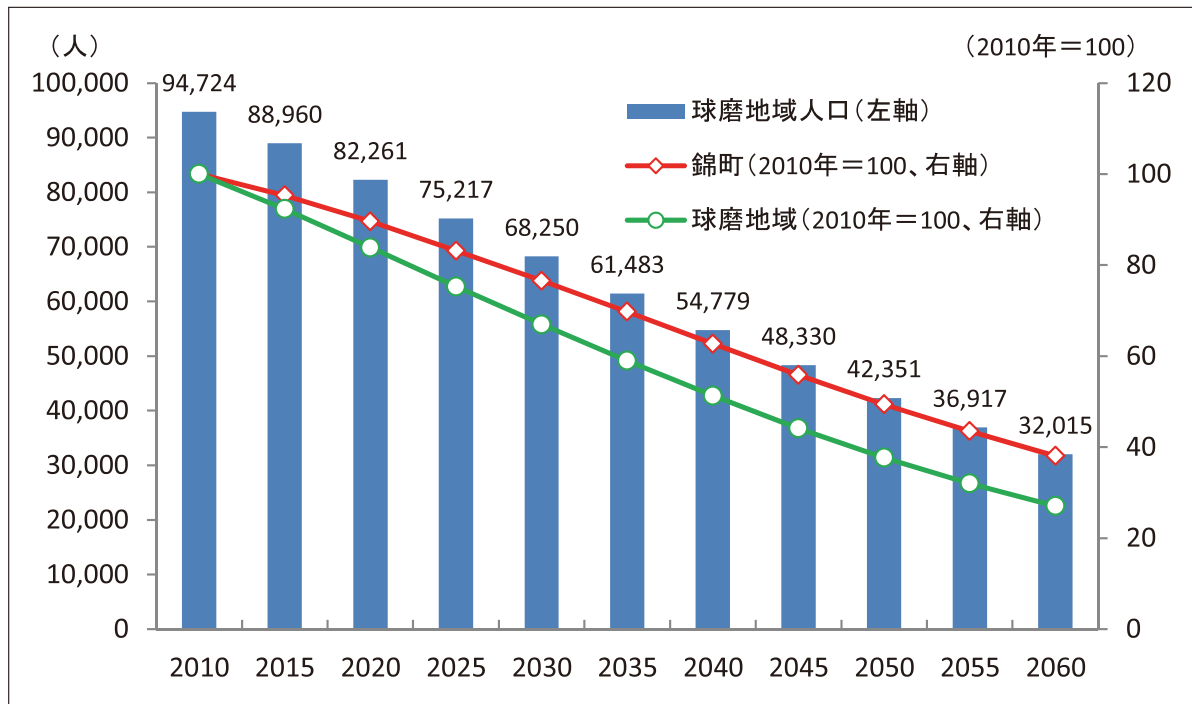
社人研：国立社会保障・人口問題研究所

創成会議：「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に係る有識者会議

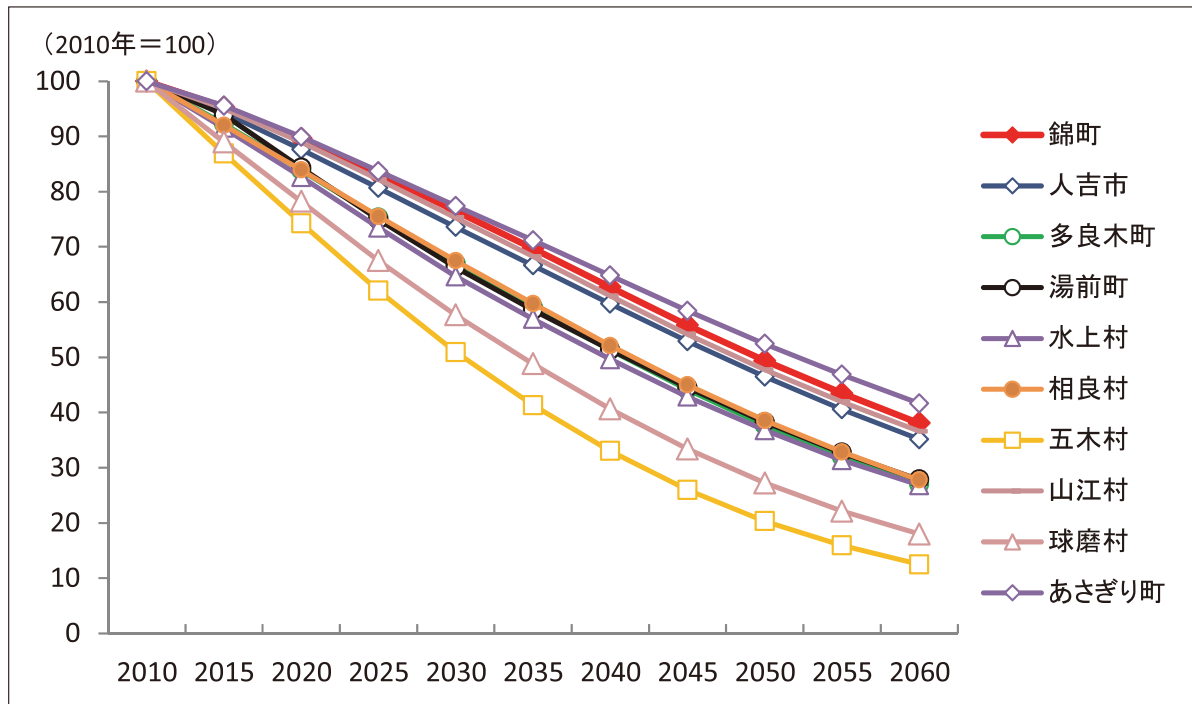
図表 錦町の将来人口推計



図表 球磨地域の将来人口推計



図表 球磨地域の市町村別将来人口推計(2010年=100)



年齢階級別将来人口

○錦町の年少人口は、2010年の1,815人から、2040年に890人、2060年に473人まで減少する可能性がある(創成会議推計)

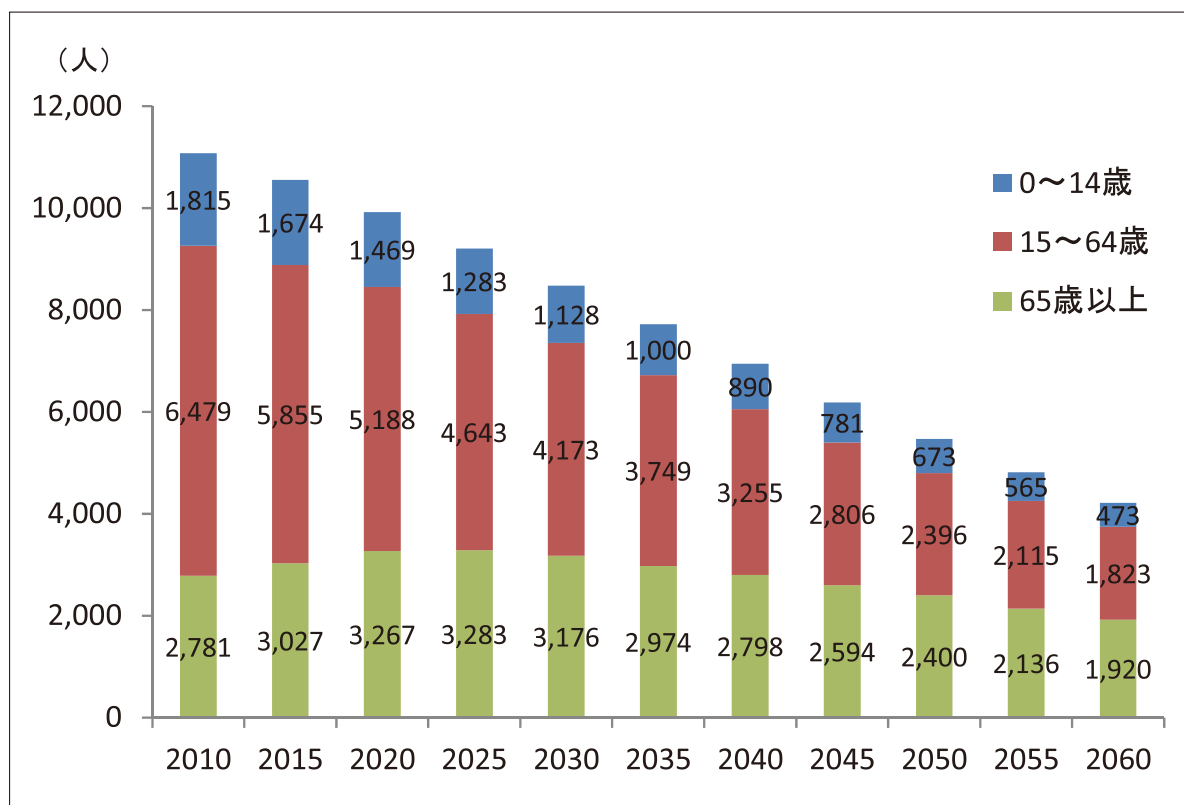
○生産年齢人口は、2010年の6,479人から、2040年に3,255人、2060年に1,823人まで減少する可能性がある(創成会議推計)

○老年人口は、2010年の2,781人から、2025年にピークを迎えたのち減少し、2040年に2,798人、2060年に1,920人となる可能性がある(創成会議推計)

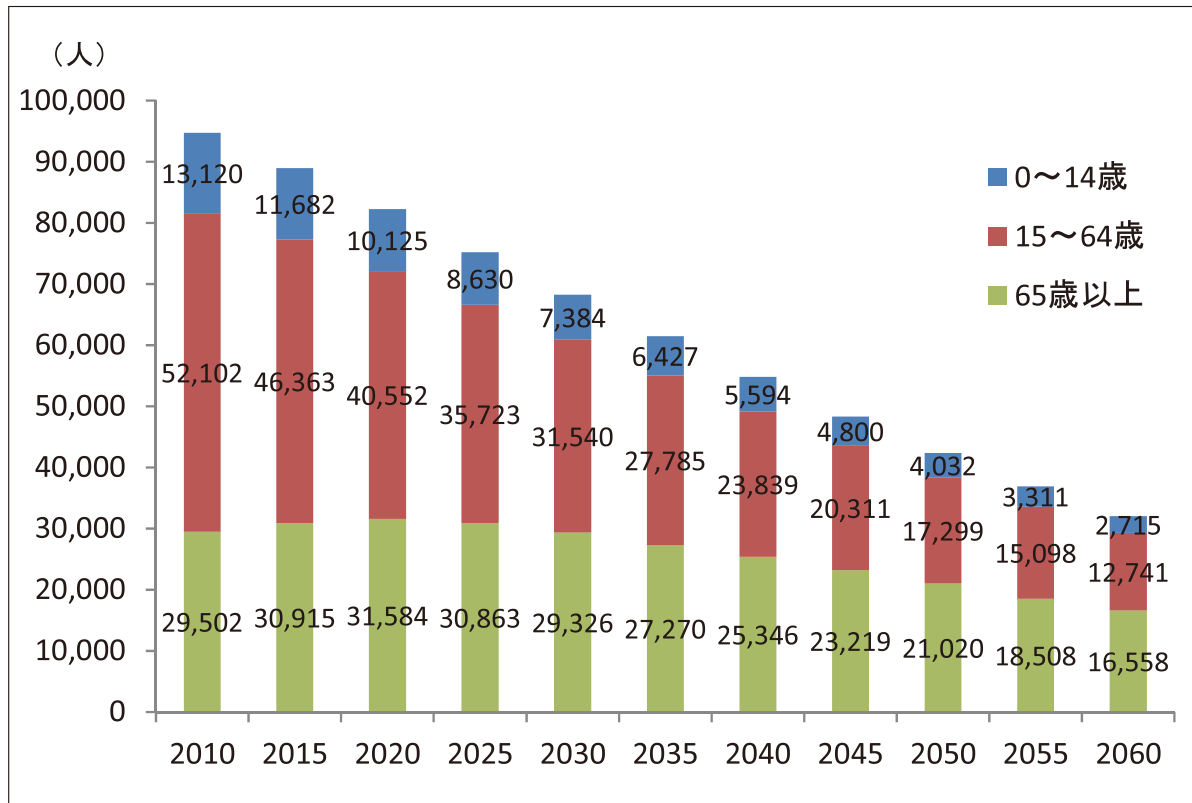
○球磨地域全体でも生産年齢人口は減少する。錦町以外の球磨地域の自治体の多くは、錦町より早いペースで生産年齢人口が減少する可能性がある。

※年少人口:0~14歳、生産年齢人口:15~64歳、老年人口:65歳以上

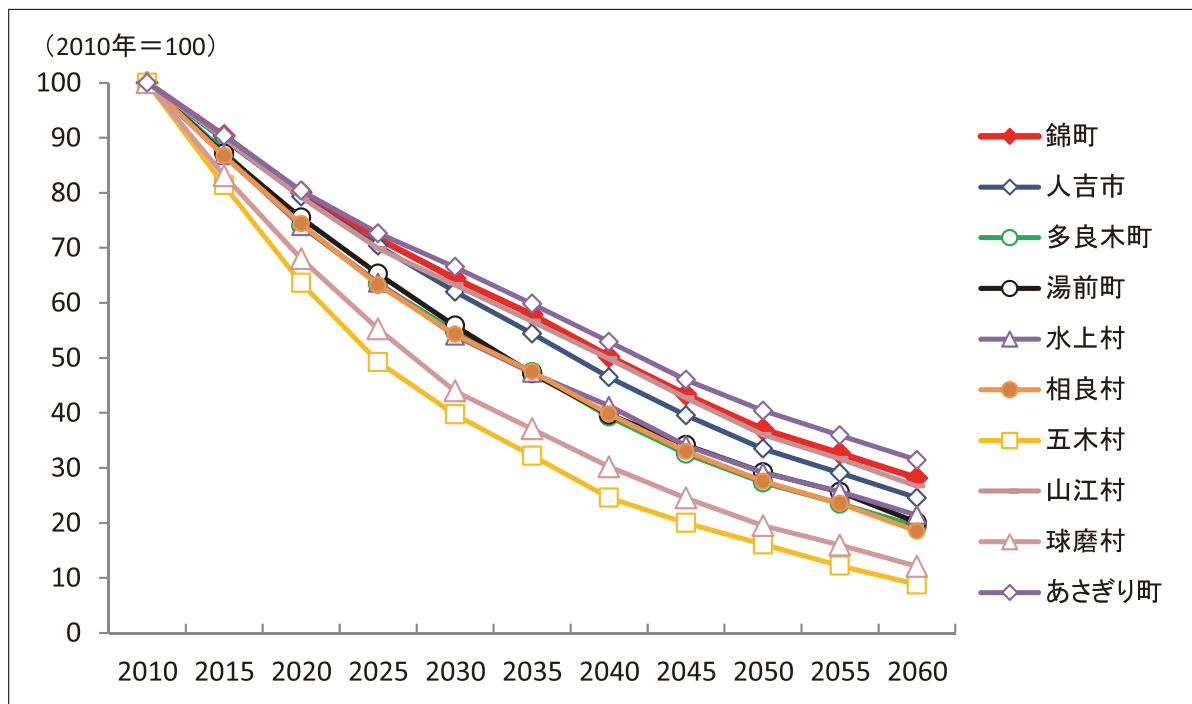
図表 錦町の将来人口推計(創成会議推計)



図表 球磨地域の将来人口推計(創成会議推計)



図表 球磨地域の人口推計(生産年齢人口、2010年=100、創成会議推計)



第3章 人口の将来展望

「第1章 人口の現状分析」で明らかにしたように、錦町は、子育て施策、生活環境整備の効果等により、全国的にも高い出生率となっている。また、子育て世代、高校生が希望する子どもの数は、現状の子どもの数よりも多く、生活・仕事環境が改善されることで、出生率はさらに上昇する可能性がある。

社会増減については、近隣の球磨地域からの住み替え等による転入が多い一方、若年層の進学・就職による転出が多く、転出超（社会減）となっている。とくに高校生の町外での就職（希望）率の高さが顕著である。

1 目指すべき将来の方向

結婚・出産・子育ての希望を実現する

錦町の合計特殊出生率は全国の自治体の中でも高い水準にある。さらに町の子育て世代・高校生へのアンケートによると、希望する子どもの数は現状より多い。希望よりも子どもを増やせない要因である「経済的な不安」等のほか、結婚・出産・子育て環境を充実させることで、さらなる出生数の増加を図る。

錦町への人の流れをつくり、人材の流出を抑制する

錦町の高中生へのアンケートによると、錦町内での就職（希望）率の低さが顕著であり、若年層の転出の要因となっている。若年層の活躍の場を提供できるしごとづくりを進め、若年人材の流出を抑制する。

また、有識者へのヒアリングによると、錦町への移住希望者や錦町での就農希望者がいる一方、仕事の間、住む場所（空家など）のミスマッチや、鳥獣による農業被害などから、移住をあきらめるケースがある。それらに対応することで、町への移住を促進し、人の流れをつくる。

魅力ある雇用を創出する

上記のとおり錦町の高中生の町内就職（希望）率が低く、若年層の流出の原因のひとつとなっており、町内に若年層が就職したいと考える場が必要である。また、町内での勤務希望に対し、収入・職種等のミスマッチから町外で勤務する方もいることが分かった。

このため、若者をはじめとする町民に魅力ある雇用の場をつくる。

安心して暮らし続ける地域をつくる

アンケート調査によると、錦町に住み続けたい割合は子育て世代、転入者とも65%を超えており、定住意向は高い。また、錦町在住者、錦町から転出した方を含め、錦町の生活環境は高く評価されている。

一方、今後も錦町に定住するための条件として、「仕事で十分な収入が得られる」「希望する職種・条件の仕事がある」「子どもの教育環境が充実している」「出産・子育てに関する行政支援が充実している」が上位に挙げられている。

それらに対応し、町民が安心して暮らし続ける地域をつくる。

2 人口の将来展望

錦町では、「(1) 目指すべき将来の方向」に沿った施策を展開することで、新しい人の流れを創造し、若い世代の結婚、出産、子育ての希望が実現されると仮定し、以下の条件で人口の将来展望を行った。

条件1: 合計特殊出生率は、2040年までに2.14(町民希望出生率※1)に上昇し、その後は2.14で推移する。

条件2: 人口移動は、現在、社会減となっているコーホート*3について、2020年までに半分程度に縮小し、その後は均衡する。社会増となっているコーホートは、現在の社会移動率を維持する。

※1 町民希望出生率

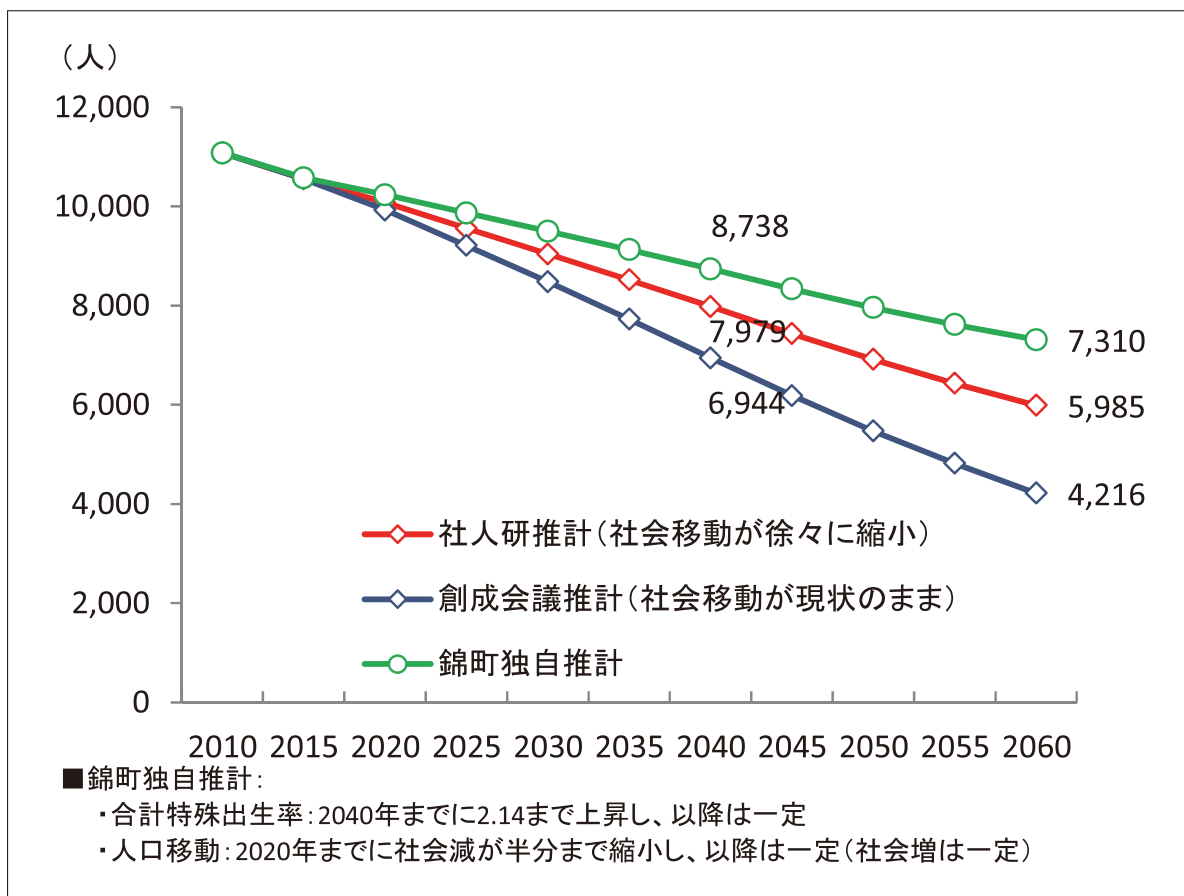
$$\begin{aligned}
 &= (\text{有配偶者割合(錦町 15~34歳女性)} \times \text{理想子ども数(アンケートより算出)}) \\
 &\quad + (\text{独身者割合(錦町 15~34歳女性)} \times \text{独身者のうち結婚希望者割合(全国 18~34歳女性)} \\
 &\quad \times \text{独身者の希望子ども数(アンケートより算出)}) \times \text{離死別再婚効果係数(全国)} \\
 &= \underline{2.14}
 \end{aligned}$$

この結果、2060年の錦町人口は7,310人となり、社人研の「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」に準拠した方法で推計された5,985人に対し、1,325人減少が抑制される。

年齢階層別にみると、2060年の年少人口は1,117人(人口比16.1%)、生産年齢人口は3,985人(54.5%)、老年人口は2,148人(29.4%)となり、社人研推計値に比べそれぞれ704人、2,161人、228人抑制される。

*3 人口学において、特定の(一定)期間内に生まれた人の集団のことをいう。ここでは、社会減となっているコーホートとして15歳~19歳をメインに20~24歳までの階層に属する人の集団を、社会増となっているコーホートとして25歳以降の階層に属する人の集団を指す。

図表 錦町の将来人口推計(錦町独自推計)



図表 錦町の将来人口推計(年齢階層別)

